

Living With Society

# アキレスのCSR 2018

詳細版



# Contents

|                |    |
|----------------|----|
| 目次／このレポートについて  | 01 |
| トップメッセージ       | 02 |
| 事業内容／沿革        | 03 |
| 会社概要           | 04 |
| 企業理念・CSR 重要テーマ | 05 |

## TOPICS

|                       |    |
|-----------------------|----|
| ① 社会との共通価値創造につながる取り組み | 07 |
| ② 海外での CSR 活動         | 09 |

## 環境のために

|                  |    |
|------------------|----|
| 環境マネジメントシステム     | 10 |
| 地球温暖化対策          | 12 |
| 省エネルギー           | 13 |
| 3R 活動と完全ゼロエミッション | 13 |
| 大気汚染防止           | 14 |

## 社会と共に

|                   |    |
|-------------------|----|
| 品質への取り組み          | 15 |
| 労働安全衛生・防火防災への取り組み | 16 |
| お客様と共に            | 18 |
| 株主様と共に            | 19 |
| 取引先様と共に           | 19 |
| 従業員と共に            | 20 |
| 地域社会と共に           | 22 |

## マネジメントについて

|             |    |
|-------------|----|
| コーポレートガバナンス | 24 |
| コンプライアンス    | 25 |
| CSR マネジメント  | 26 |

|               |    |
|---------------|----|
| データ編 (環境のために) | 27 |
|---------------|----|

## このレポートについて

■ 報告書対象範囲  
アキレス株式会社および国内子会社・海外子会社  
※範囲が異なるものについては個別に明記します

■ 報告対象期間  
2017年4月～2018年3月

■ 発行時期  
前回：2017年9月  
今回：2018年9月(2019年8月 P11 訂正)  
次回：2019年9月(予定)  
※年1回発行

■ 参考にしたガイドライン・原則・技術規定  
ISO 26000 (社会的責任に関する手引)  
ISO 14001 (環境マネジメントシステム)

■ 編集方針  
アキレスグループは「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を定め、「健康」「快適さ」「楽しさ」を感じることができる製品やサービスを提供することが、グループにとっての重要な課題であると位置づけています。また持続可能な社会の発展に貢献する活動として、「省エネルギー化」や「地球温暖化防止」にも積極的に取り組んでいます。これらの課題への対応には株主様、お客様、お取引先様、従業員などさまざまなステークホルダーとの連携が重要であると考えています。本レポートでは、ISO 26000を活用して取り組みのチェックを行いながら、グループの主なCSR活動に関する詳細な情報をESG(環境、社会、ガバナンス)で分類し、パフォーマンスデータと共に活動報告として記載しています。

## CSR報告ツールについて

**詳細版** ※本誌  
アキレスのCSRの考え方や取り組みについて、詳細に紹介しています。

**冊子版**  
アキレスのCSRの考え方や取り組みについて、エッセンスを報告しています。



アキレスのCSR

検索

<https://www.achilles.jp/csr/>

## トップメッセージ



代表取締役社長

伊藤 淳

当社は、創業当時より「できるだけお客様の役に立ちたい」という思いを掲げてまいりました。これが、当社のスローガンである「あなたの身近にいつも… アキレス」に込められた思いです。この思いを抱き、時代の変化に合わせて、製品を開発し、サービスを変え、お客様と共に歩んできたと自負しています。

身近な製品…それはシューズ、ウレタンフォームを使用した寝具、快適なドライビング環境を演出する車輻内装材、快適空間をつくる壁紙などの建築資材であり、日々の暮らしになくてはならないものです。これらの製品をこれからも創り続けていくためには、言うまでもなく、お客様の目線で考えることが最も重要だと思っています。

昨今、品質データ偽造などが報道され、日本の製造業への信頼が揺らいでいます。私たちの会社は何のために存続し、何のために事業を行っているのかが問われているように感じています。

当社の企業理念は「社会との共生」＝「顧客起点」ですが、社会の中で必要とされる企業であり続けるには、国の内外を問わず、人権を尊重し、法令や国際ルールを遵守することを当たり前に行うことが必要です。つまり、社員一人ひとりの取り組みが注視されていると思います。

昨年会社創立70周年を迎え、創業精神への原点回帰を誓うとともに、アキレスの新たな歴史づくりをスタートさせました。原点である「すべてはお客様と共にある」との思いは、これからも変わることはありませんが、さらに、市場の変化やお客様のニーズに対応した製品安全・品質・信頼性を向上させ、優れた製品・サービスをお客様に提供していくことを誓いたいと思います。

2018年9月

## 事業内容

### シューズ部門

シューズ事業部 キッズ、メンズ、レディースシューズ



キッズ



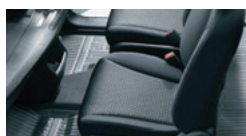
メンズ



レディース

### プラスチック部門

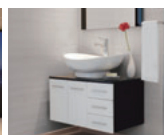
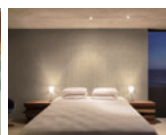
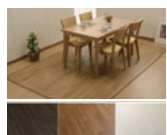
車輻資材事業部 車輻内装用資材、一般塩化ビニールレザー、合成皮革など



化成事業部 一般用・工業用・農業用フィルムなど



建装事業部 建築用内装資材

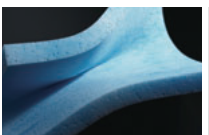


引布販売部 防災テント、ボート、住宅排水管用フレキシブルジョイントなど

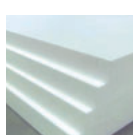
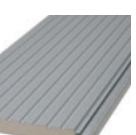
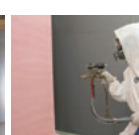
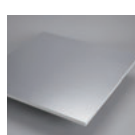


### 産業資材部門

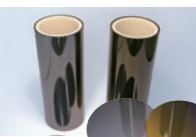
ウレタン事業部 軟質ウレタンフォーム製品、および2次加工製品



断熱資材事業部 硬質ウレタンフォーム断熱製品、現場発泡用硬質ウレタンフォーム、発泡スチロール断熱材など



工業資材販売部 静電気対策製品、反応射出成形品など



### 開発営業部

開発営業部 「Tn-p工法」などインフラ関連技術、「グラスレ」



## 沿革

|       |     |  |
|-------|-----|--|
| 1947年 | 5月  | 資本金200万円をもって「興国化学工業株式会社」を設立。本店を東京都中央区日本橋とし、工場を栃木県足利市に置き、ゴム製品の製造、販売を開始。 |
| 1948年 | 4月  | 塩化ビニール製品の製造・販売を開始。   |
| 1951年 | 3月  | 本店を東京都中央区新富町に移転。   |
| 1956年 | 6月  | 大阪営業所を大阪支店に昇格し、関西市場の拡張をはかる。  |
| 1957年 | 4月  | 栃木県足利市に山辺工場(現・足利第一工場)を建設。  |
| 1961年 | 6月  | 英国ICI社と軟質ポリウレタンフォームの製造に関する技術提携。  |
| 1962年 | 9月  | 東京証券取引所市場第一部に上場。   |
| 1963年 | 1月  | 当社独自の合成皮革「カブロン」の製造に成功、販売を開始。   |
| 1964年 | 2月  | 本店を東京都新宿区大京町に移転。   |
| 1965年 | 11月 | 米国ニューヨークに現地法人アキレス K.C.I. Corp. を設立。(1978年ACHILLES USA, INC. により吸収)     |
| 1969年 | 7月  | 栃木県足利市に御厨工場(現・足利第二工場)を建設。<br>車輻内装材、硬質ウレタンシェル等産業資材の製造に着手。               |
| 1973年 | 2月  | 香港駐在員事務所を現地法人とし、「興白有限公司」(現ACHILLES HONG KONG CO., LIMITED) 設立。         |
| 1973年 | 10月 | 滋賀県犬上郡に関西工場(現・滋賀第二工場)を建設。  |
| 1973年 | 11月 | 米国ワシントン州エヴァレット市に「KOHKOKU USA, INC.」(現ACHILLES USA, INC.) を設立。          |
| 1974年 | 8月  | 北海道美幌市に美唄工場を建設。  |
| 1978年 | 11月 | 滋賀県野洲市に滋賀第一工場を設立。  |
| 1982年 | 2月  | 社名を変更し、「興国化学工業株式会社」から「アキレス株式会社」とする。                                    |
| 1986年 | 6月  | ドイツA.S.Creation社と壁材製造に関する技術提携。   |
| 1988年 | 3月  | スウェーデンTarkett社と床材の製造に関する技術提携。  |
| 1989年 | 1月  | 福岡県飯塚市に九州工場を建設。  |
| 1993年 | 12月 | 中国昆山市に塩ビレザーの製造合弁会社「昆山阿基里斯人造皮有限公司」設立。                                   |
| 1998年 | 12月 | 導電性素材「STポリ」生産開始。   |
| 2002年 | 9月  | ISO 14001全国7工場6関連会社の全てで認証を取得。  |
| 2002年 | 10月 | 中国上海市に、中国国内における当社関連製品の販売および輸出入を行う「阿基里斯(上海)国際貿易有限公司」を設立。                |
| 2004年 | 2月  | 「昆山阿基里斯人造皮有限公司」第二工場稼働。   |
| 2005年 | 12月 | 栃木県足利市の足利第一工場内に「アキレステクニカルセンター」を開設。                                     |
| 2006年 | 11月 | 「三進興産株式会社」の発行済全株式を取得し、当社子会社とする。  |
| 2007年 | 10月 | 環境に配慮した車輻内装用合成皮革の生産に向け、最新鋭製造設備を足利第一工場に導入。<br>全事業部でのISO 9001取得。         |
| 2008年 | 2月  | 台湾に、半導体市場の生産拡大に合わせ「阿基里斯先進科技股份有限公司」を設立。                                 |
| 2008年 | 4月  | 米国デトロイトにACHILLES USA, INC. の営業所を設立。                                    |
| 2009年 | 3月  | シューズ「瞬足」ブランド、伊藤忠商事株式会社とパートナーシップ契約を締結。                                  |
| 2015年 | 2月  | 本店を東京都新宿区北新宿に移転。   |

# 会社概要

設立 1947年5月  
 代表者 代表取締役社長 伊藤 守  
 資本金 146億4千万円  
 従業員数 1,707人(連結) ※2018年3月末  
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

本社所在地 〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー  
 事業所 [販売拠点] 東京、大阪、北海道、愛知(ウレタン)、福岡  
 [生産拠点] 栃木(3拠点)、滋賀(2拠点)、北海道、福岡  
 ※各拠点の詳細な住所は以下URLでご確認ください  
<https://www.achilles.jp/company/>

## 事業拠点

**アキレス** アキレス(株) 拠点

子会社事業説明

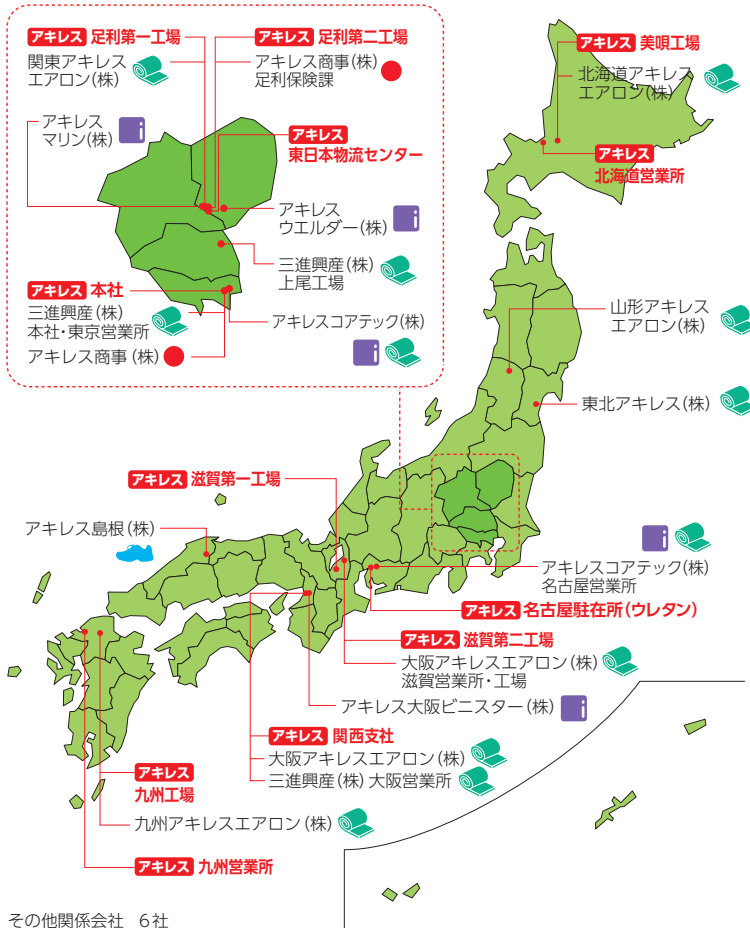
シューズ部門

プラスチック部門

産業資材部門

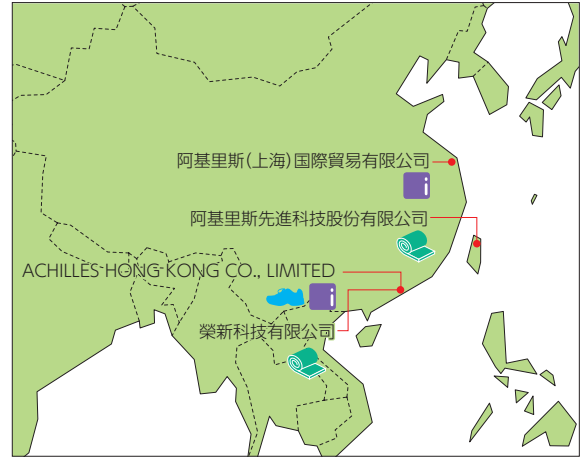
その他

### ●日本

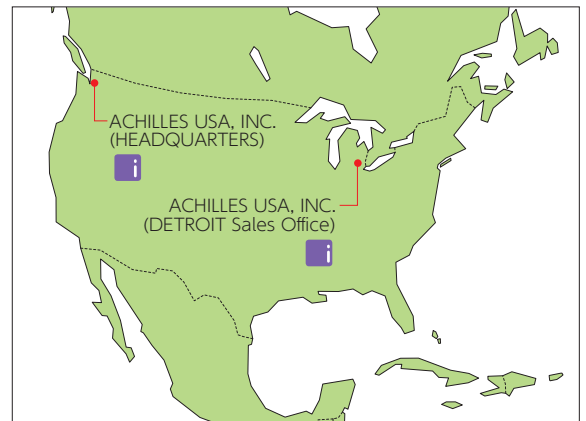


その他関係会社 6社

### ●アジア

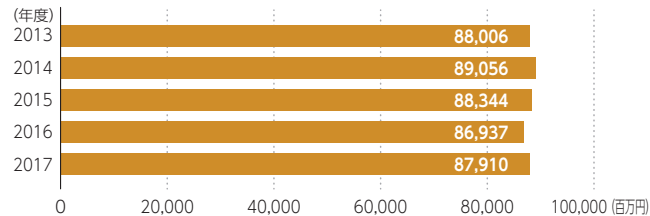


### ●アメリカ

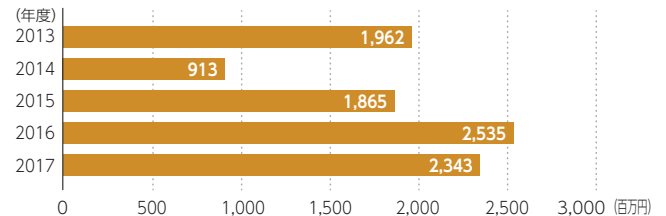


## 連結売上高・利益年度別推計

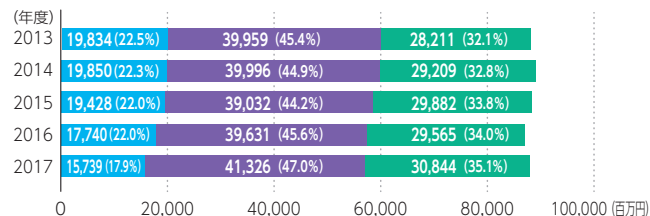
### ●売上高



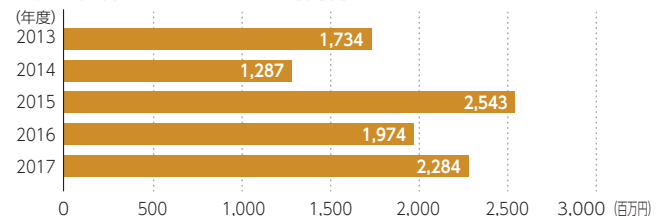
### ●営業利益



### ●セグメント別



### ●親会社株主に帰属する当期純利益



※その他、財務情報および大株主に関する情報は有価証券報告書をご参照ください

## 「社会との共生」=「顧客起点」

「顧客起点」のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する。

### アキレスグループのCSRの基本的な考え方

私たちアキレスグループは、豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社であり続けることを目指しています。そのために必要なのが、企業に社会に未来に、新たな価値を創り続けていくことです。「健康」「快適さ」「楽しさ」「省エネルギー化」をキーワード

に、創業以来培ってきたプラスチック加工技術をさらに向上・進化させ、お客様により身近な製品、独創性のある製品をご提案します。私たちはたゆまぬ改善を重ね、全てのステークホルダーの皆様の信頼とご期待に応えます。

### アキレスのCSR重要テーマと活動目標・実績

アキレスでは、ISO 26000の7つの中核主題に基づき、自社にとって重要度の高い取り組みを「CSR重要テーマ」と位置づけています。

| CSR重要テーマ・活動方針 | 2017年度の活動目標  | 2017年度の主な活動実績   | 自己評価※1  |
|---------------|--|---|---|
| <b>消費者課題</b>  | <b>製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供</b><br>製品における安全性確保や品質向上に取り組み、社会の要請に応え感動を与えるモノづくりを追求します<br> | 有害物質の排除など、製品デザインレビュー時の安全審査の徹底<br>品質管理の徹底(全工程パトロールの推進)<br>表示に関する社内規定の見直し<br>英語、中国語などカタログ記載言語の拡充<br>ユニバーサルデザインによる注意・警告ラベルの採用推進<br>持続可能な消費・環境配慮への啓蒙推進<br>グリーンプラ・エコマーク商品の訴求<br>バリューチェーンにおけるCSR活動の推進<br>アンケート調査による苦情対応方法の改善推進<br>取引契約に関する法令などの知見を高めサービス向上を推進                         | 省エネルギー化につながる住宅リフォーム用製品の訴求(ジュウテンR)/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の展示会などでの訴求(床材、ボート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求(フィルム製品)/PRTR※2法対象物質の管理/製品素材の安全性審査の実施/全製造工程パトロールによる品質管理/製品表示法遵守の環境整備(規定整備と研修実施)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ボート製品)/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/当社グループのCSR活動報告の広報/お客様アンケートの活用と業務改善(品質・サービス)/取引契約に関する研修の実施<br><p style="text-align: center;">A</p>  |
| <b>環境</b>     | <b>環境への取り組み</b><br>CO <sub>2</sub> 、水、廃棄物などの環境負荷低減、森林や生物多様性などの環境保全に取り組みます<br>       | 環境目標達成の推進(CO <sub>2</sub> 削減、省エネ推進、廃棄物削減など)<br>輸送に伴うエネルギー使用量削減の推進<br>地球温暖化係数の低い発泡製法品の訴求<br>製品(シリコンウエハー搬送用ケース)のリユース事業の推進<br>長寿命製品の訴求<br>バリューチェーンへの環境配慮活動の啓蒙<br>サプライチェーンへの環境配慮活動の啓蒙<br>森林保全活動への参画や水質汚染防止訓練への参加<br>木質バイオマス燃料使用などによるCO <sub>2</sub> 削減活動への協賛<br>工場見学を通して地域社会との対話を促進 | 全事業場でのCO <sub>2</sub> 削減と省エネルギー活動の推進/3R※3活動の推進/完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)の達成/大気汚染物質の排出抑制/モーダルシフトの推進(輸送時)/水の循環利用(冷却水)/太陽光発電(足利工場、滋賀工場)/省エネ照明への切り替えを促進/断熱資材事業を通じて省エネルギー化を訴求/発泡製品のノンフロン化促進ならびに温暖化係数が低い発泡剤使用製品の訴求(断熱資材製品)/長寿命製品の開発と訴求活動/リサイクルを考慮した製品開発(ボート、遮水シート製品)/老朽インフラ改修時の省力工法の訴求/植物由来の原材料を使用したフィルム製品の訴求/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/生物多様性への取り組み(森林保全活動への寄附など)/地域社会のCO <sub>2</sub> 排出削減活動への協賛(J-クレジット購入)<br><p style="text-align: center;">A</p> |

| CSR重要テーマ・活動方針    |   | 2017年度の活動目標                     | 2017年度の主な活動実績  | 自己評価※1 |
|------------------|---|---------------------------------|--|--------|
| 公正な事業慣行          | 取引先との協働<br>取引先を含めたサプライチェーン全体における取り組みや、公正な事業活動を推進します   | [アキレス行動指針]の遵守推進                 | [アキレス調達基本方針]の訴求/主要取引先様への「調達アンケート」の実施/従業員の法令遵守意識の啓蒙(コンプライアンス研修、内部通報制度の訴求)/下請法遵守の訴求/内部監査の適宜実施  | A      |
|                  |   | [アキレス調達基本方針]の徹底(サプライチェーンに対する啓蒙) |  |        |
|                  |   | 内部通報制度(「ホットライン」)の周知             |  |        |
|                  |   | コンプライアンス研修の実施                   |  |        |
| 人権と労働慣行          | 人権に配慮し多様な人材を活用しグローバル人材を育成します<br>             | [アキレス行動指針]の遵守推進                 | [アキレス行動指針] 遵守への誓約/[従業員アンケート]の実施(人権リスクの把握)/内部通報手続きフロー図の掲示(全事業場)/主要取引先様への「調達アンケート」の実施/コンプライアンスチェックノートの配布(全製造従業員)/グローバル研修の実施/ジョブローテーション(海外子会社から本社への出向)/「コミュニケーション品質向上」研修の実施                 | A      |
|                  |   | [従業員アンケート]の実施                   |  |        |
|                  |   | [アキレス調達基本方針]の徹底(サプライチェーンに対する啓蒙) |  |        |
|                  |   | グローバル人材育成プログラムの推進               |  |        |
|                  |   | 内部通報制度(「ホットライン」)の周知             |  |        |
|                  |   | コンプライアンス研修の実施                   |  |        |
| 安全で働きやすい健康的な職場環境 | 安全で健康に働くことのできる職場づくりに取り組みます<br>               | ストレスチェックの実施を含む労働安全衛生法の遵守        | ストレスチェックの実施(国内全事業場)/定期的に安全衛生委員会を開催し職場の安全パトロールを実施/職場環境の改善実施/5S活動の推進(製造部門)/産業医との相談窓口の設置/ウォーキングキャンペーンの実施(アキレス健康保険組合との連携)  | A      |
|                  |   | 職場の安全パトロールと改善活動の推進              |  |        |
|                  |   | 5S活動による職場環境の美化推進                |  |        |
|                  |   | 健康づくりに役立つプログラムの提供               |  |        |
| コミュニティ参画・発展      | 地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献します<br> | 事業場近隣地域の企業の活用                   | 地元教育機関や企業の工場見学受け入れ/地元企業への取引機会の提供/地域の清掃ボランティア/水質事故被害拡大防止訓練への参加(滋賀県)/足利花火大会および足利尊氏公マラソン大会への協賛/第16回ジュニア陸上競技チャレンジカップへの協賛(東京都)/第6回瞬足チャレンジ2018/[「足育(そくいく)」活動出前講座の推進(東京都周辺)/「足育(そくいく)」足型測定会(全国) | A      |
|                  |   | 地域社会の催事への参画                     |  |        |
|                  |   | 事業場近隣の清掃活動の実施                   |  |        |
|                  |   | 地域の防災活動への参加                     |  |        |
|                  |   | 教育機関からの工場見学受け入れ                 |  |        |
|                  |   | [「瞬足陸上教室」]の開催                   |  |        |
|                  |   | [「足育(そくいく)」]活動出前講座の実施           |  |        |
| 組織統治             | ガバナンス・リスクマネジメント<br>経営の透明性を高める制度の強化、リスク対策に取り組みます   | CSRマネジメントの推進(ISO 26000に準拠)      | [アキレスCSR重要テーマ]への取り組み推進/ガバナンス強化の推進(CGコード※4対応、内部統制環境の拡充、コンプライアンス研修の推進など)/ステークホルダーエンゲージメント/新人事制度の運用推進/新卒採用女性の比率UP   | A      |
|                  |   | コンプライアンスの推進                     |  |        |
|                  |   | ステークホルダーのニーズの把握と反映              |  |        |
|                  |   | 各種人材育成プログラムの実施                  |  |        |
|                  |   | 女性活躍を含むダイバーシティへの取り組み推進          |  |        |

※1 自己評価の基準 A=良好、B=良、C=不足

※2 Pollutant Release and Transfer Register(環境汚染物質排出・移動登録)の略語

※3 廃棄物の発生抑制(リデュース)、部品などの再利用(リユース)、再生資源としての再利用(リサイクル)の略語

※4 コーポレートガバナンス・コードの略語。東京証券取引所の有価証券上場規程の別添として定められ、2015年6月1日から上場企業に適用

## 持続可能な開発目標(SDGs)とは

SDGsは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略語です。2030年までを期間として、2015年に国連で採択された国際目標で、17のゴールと169のターゲットで構成されています。P5~6表内のCSR重要テーマ・活動方針の下に配置したロゴは、アキレスグループがそれぞれの取り組みを通して貢献しているゴールを表しています。

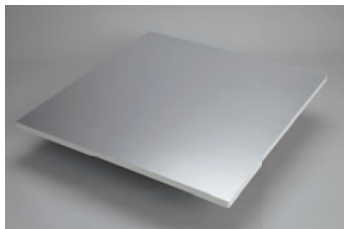


# 社会との共通価値創造につながる取り組み

## 最高水準の断熱性能を有する「ジーワンボード」(Z1ボード)

11 住み続けられるまちづくりを

13 気候変動に具体的な対策を



当社は、熱伝導率 0.018W/(m・K) という業界最高水準<sup>※1</sup>の断熱性能を有するボード型の断熱製品「ジーワンボード」(Z1ボード)の開発に成功し、2017年10月より販売しています。

※1 2018年3月末時点で発売されている建築用断熱材のうち、真空断熱材など断熱性能の発現機構が一般の繊維系断熱材、発泡プラスチック系断熱材とは異なるものは除く



熱伝導率の低い材料(断熱材)を外気と内気の境界(壁面)に使用し建物室内の保温効果を高めることで冷暖房時の消費エネルギーを抑え、温室効果ガスの排出量を低減することができます。

アキレス株式会社  
断熱資材事業部 断熱資材販売部 戸建特販課  
神山 知則

## 古いトンネルの老朽化対策に有効な「Tn-p工法」

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



当社は、トンネルの老朽化対策に有効な「Tn-p工法」を全国展開しています。これは、古いトンネルの覆工背面の空洞に「アキレスエアロン-R」(発泡ウレタン)を注入充填し、地震などによるトンネルの崩落や損傷を防ぐためのトンネル補修技術(裏込注入工)です。



注入設備がコンパクトで、注入材は発泡前の液状(ドラム缶)搬入のため、4トン車に全資機材を積載可能。道路トンネルは、高所作業車と資機材運搬車の計2台で対応できます。発泡ウレタンは固化時間が1分と短く、材料流出リスクも少ないため、施工安全性も向上します。

アキレス株式会社  
開発営業部 開発営業課 係長  
西尾 理



## ダニ除け特殊コーティングウレタンフォーム「ダニコン」

3 すべての人に健康と福祉を



当社は、ダニ除けの技術を持つ KINCHO<sup>※2</sup>とコラボレーションし、ダニの侵入を抑える機能性ウレタンフォーム「ダニコン」を製造販売しています。

※2 大日本除虫菊株式会社(本社:大阪府大阪市、代表取締役社長:上山 直英)



「ダニコン」には、安全性の高いピレスロイド系の薬剤が使用されていますので、ダニを寄せ付けにくく、お子様にも安心して使用いただけます。

アキレス株式会社  
ウレタン事業部 ウレタン販売部 インテリアリビング課  
谷 泰孝

## 足元から健康をサポート「ソルボセイン」<sup>※3</sup>靴用インソール製品

3 すべての人に健康と福祉を



三進興産株式会社は、衝撃吸収性素材を組み合わせた靴用インソールなどの開発・製造・販売を通じて、足への衝撃負担を軽減させたいと考えています。

※3 「ソルボセイン」は三進興産株式会社が製造販売を行っている衝撃吸収性と圧力分散性を持った機能素材であり、三進興産株式会社の登録商標

<https://www.sorbo-japan.com/sorbo/sorbo.html>



自分に適した靴と靴用インソールを選ぶことと、正しく靴を履くことが、足への負担やトラブルを防ぐ上での重要なポイントです。私たちは、店頭でのイベントなどを通じて啓蒙活動を行っています。

三進興産株式会社  
東京営業所 営業部 所長  
河野 忠正



## コミュニケーション品質向上 社内研修



情報通信技術の急激な進歩により情報共有の利便性は格段に高まりました。一方で、ことばで意思疎通を行う機会が減少し始めています。当社では、イノベーションを育む重要な要素として、コミュニケーション品質の向上に努めています。



チーム力を高める上で、互いの意思疎通は重要だと感じています。また、コミュニケーションはお客様の満足を得る上でも重要な手段です。日々、品質向上に努めています。

アキレス株式会社  
車輪資材事業部 車輪資材販売部 部長  
金田 浩一

## ビニールハウスの換気時などの 作業性を改良した「プラチナコート」

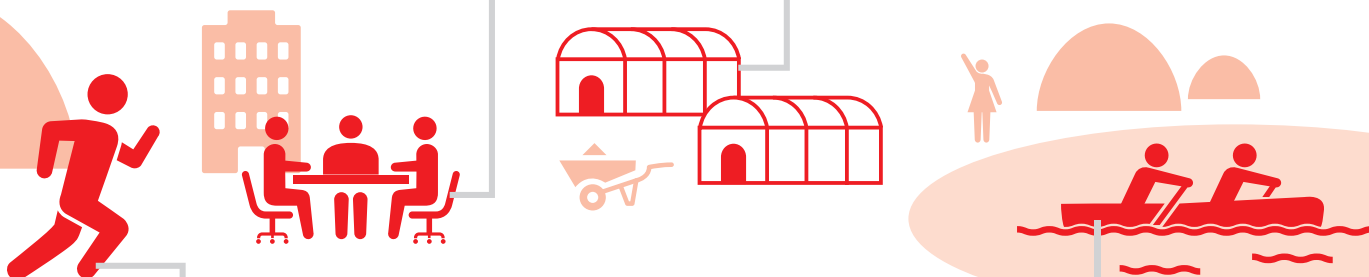


農業用ビニールフィルムのベタつきは、ビニールハウスの展張や換気などの際に破損や作業負担増の原因となります。「プラチナコート」は、当社独自のコーティング技術により、ベタつきの原因となる成分がフィルム表面に移行することを防止し、さらにコーティング層の特殊な処理により、ベタつきを大幅に抑えています。



ベースフィルムにリサイクル率の高いポリ塩化ビニル樹脂を使用した、環境に優しい製品です。ベタつきの抑制はもちろん、汚れの付着しにくさから、ビニールハウスの透明性もより持続させます。

アキレス株式会社  
滋賀プラスチック工場 生産技術課 課長  
井上 希望



## 市民ランナーのための 「MEDIFOAM / メディフォーム」



当社は、マラソンブームで増加する市民ランナーをサポートすることを目的に、ランニング時の衝撃を和らげ、楽に走れるランニングシューズ「MEDIFOAM / メディフォーム」を開発し製造販売しています。

インソールかかと部に「ソルポセイン」※4 を搭載し、ミッドソールに配した「MEDIFOAM」と合わせて2段階で接地時の衝撃を吸収。蹴り出す際には「MEDIFOAM」の反発弾性により、EVA※4 素材とは異なるスムーズな反発が得られます。

※4 エチレン-酢酸ビニル共重合樹脂の略称



アキレス株式会社  
シューズ事業部 営業本部 副本部長  
津端 裕

## アルミ素材の採用でリサイクルに 配慮 Poseidon「HB-310AX」



当社は、廃棄時のリサイクルに配慮し船底部分にアルミ素材を採用したRIB(リジッドインフレーターブルボート)※5 Poseidon「HB-310AX」を製造販売しています。

※5 インフレーターブルボートをもとに、船底に硬質の素材を用いることで、軽量化に加え高速運転時の波浪への耐性を高めた複合艇

リサイクル可能なアルミ素材を使用したRIBはアメリカを中心に強い人気があります。当社では、さらに高耐久素材であるCSMゴムを使用したエアチューブを使用しており、地球環境に配慮した製品づくりを心掛けています。



アキレス株式会社  
引布販売部 マリン引布課  
市川 弓絵

# 海外でのCSR活動

## アメリカ合衆国

### ACHILLES USA, INC. (HEADQUARTERS)の取り組み

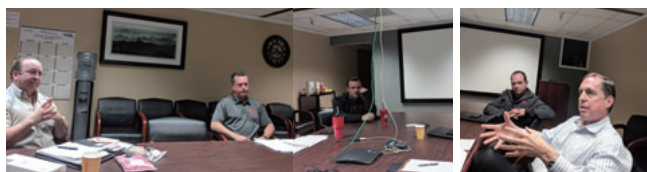


ACHILLES USA, INC.は、アキレスグループの北米におけるプラスチック製品の生産販売拠点です。ACHILLES USA, INC.では、以前から独自の環境保全活動を推進してきましたが、2018年より、アキレスグループのCSR重要テーマに関する取り組みを、従業員と共に推進しています。

2018年度のCSR推進テーマは、「Reduce in house scrap 10% (材料スクラップの前年比10%削減)」です。これらの活動を通じて、SDGsに貢献したいと考えています。



トレーニング風景



CSR推進テーマ協議風景

## 中華人民共和国

### 阿基里斯(上海)国際貿易有限公司の取り組み



阿基里斯(上海)国際貿易有限公司は、2017年9月に、フレンド(ボランティア団体)、TARC(上海ランニングクラブ)、温岭東洲進出口有限公司と協力して、江西省贛州市の貧困地域の小学校3校(TI希望小学校、小珍希望小学校、新世紀希望小学校)の児童に、「瞬足」1,391足を寄贈しました。TI希望小学校での贈呈式では、TARCと協力して体操やミニリレーを催し、児童との交流を図りました。また、阿基里斯(上海)国際貿易有限公司では、百貨店などの「瞬足」売場において足型測定会を開催し、正しい靴の選び方や履き方を啓蒙しています。



TI希望小学校での贈呈式(中華人民共和国 江西省贛州市)

## カンボジア王国

### プレアビヒア地域へ シューズを寄贈



カンボジア北部、世界遺産・プレアビヒア寺院のあるプレアビヒア地域近郊は、カンボジアの中でも最貧地区の一つといわれています。プレアビヒア日本協会では、この地域の人々が自立して生活できることを最終目標として、さまざまな活動を行っています。学生ボランティアを年2回現地に派遣し、教育活動や植樹、生活実態調査などを行う支援活動も、その一つです。

当社には、カンボジアに拠点を置くグループ会社があり、そこで製造される靴を、輸入販売しています。その縁から2017年、当社のシューズ60足を、プレアビヒア日本協会を通じて現地に寄贈しました。

この地域の人々の中には、靴を初めて履くという人もいるようで、「足のけがを防いでくれそう」「サッカーのとき、足が痛かったのですごく嬉しい」など、喜びの声をいただくことができました。



シューズを寄贈(カンボジア王国 プレアビヒア地域)

## 台湾

### 阿基里斯先進科技股份有限公司の取り組み



台湾 阿基里斯先進科技股份有限公司は、従業員へのコンプライアンス教育と啓蒙を行い、公正で透明な取引慣行の履行に努めています。また、アキレスグループのCSR重要テーマごとに活動とその目標を定め、取り組みを行っています。主なテーマとしては、半導体シリコンウエハー搬送ケースのリユース事業によるプラスチックの廃棄削減を推進しており、2017年は300トンの廃棄樹脂削減に貢献しました。



コンプライアンス研修風景

リユース検討会議



# 環境のために

地域および地球規模の環境保全は、シューズ、ゴム、プラスチック製品といった化学原材料による製品の製造を中心に事業展開するアキレスにとって、極めて重要な使命です。当社は事業活動が環境と深く関わっていることを認識し、環境負荷低減に努め持続可能な社会の発展に貢献します。

## アキレスグループ環境方針

アキレスグループは、「社会との共生」=「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を続けることを基本に、シューズ、ゴム、プラスチック製品の製造、販売を主体に事業活動を推進しています。環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動するとともに、新たな価値を創り続けることで、豊かで快適な社会づくりに貢献し、高い信頼を得る企業を目指します。

1. 事業活動による環境への影響を的確に把握し、環境目的・目標を定め、その実現を図ります。
2. 環境監査等により定期的に環境管理システムを見直し、継続的改善を図るとともに、環境汚染の予防を徹底します。
3. 環境に関係する法令・条例・協定および会社方針・規則等を遵守します。
4. 事業活動を通じて、環境配慮型の商品開発、地球温暖化防止と省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進を行い、健全な環境の維持・向上に努めます。
5. 事業活動が環境に与える影響を全員が認識し、適切な行動が取れるよう教育・社内広報活動に努め、環境保全への意識向上を図ります。

## 環境マネジメントシステム

### ISO 14001への取り組み

地球環境保全のため、そしてアキレスグループの体質強化のため、環境マネジメントシステムISO 14001をツールとして活用し、その中で環境方針、環境目標を定めて、環境負荷低減につながる生産工程および製品づくりを推進し、継続的に環境改善活動に取り組んでいます。2017年度の外部認証機関の審査では、「観察事項」17件と軽微な指摘があったものの、システム

は維持されているとの評価でした。指摘事項については水平展開を図り、環境管理活動に反映させてレベルアップを進めました。

 **P27 ISO 14001:2015登録事業場JUSE-EG-661**  
(2018年5月更新兼移行審査、7月更新・登録)

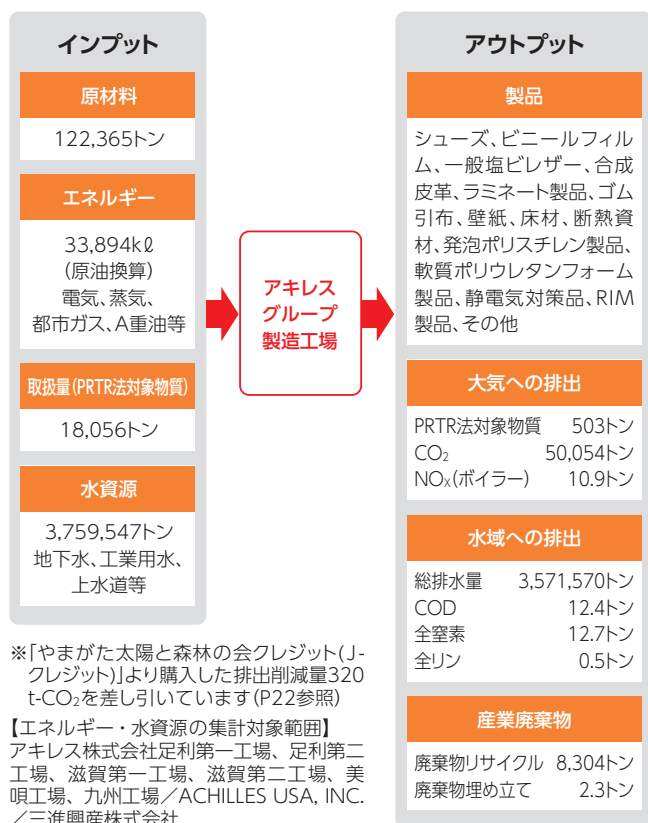
### ●2017年度活動結果概要・2018年度以降目標

| 環境目的                                 | 目標                                    |                                      | 2017年度実績  | 評価 | 2018年度以降目標                           | 掲載ページ        |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|---|----|--------------------------------------|--------------|
|                                      | 管理項目                                  | 値                                    |   |    |                                      |              |
| 地球温暖化防止と省エネルギー                       | 温室効果ガス(CO <sub>2</sub> )排出量           | 2010年度比、7%削減(2020年度までに2010年度比10%削減)  | 5.2%削減<br>※2010年度排出係数採用                         | ×  | エネルギー原単位前年度比、1%削減                    | P.12<br>P.13 |
|                                      | エネルギー原単位                              | 前年度比、1%削減                            | 0.1%削減  | ×  |                                      |              |
| 3R活動による完全ゼロエミッション                    | 廃棄物排出量<br>※3R活動推進を基本とする               | 2010年度比、14%削減(2020年度までに2010年度比20%削減) | 29.4%増加<br>※生産の増加が主要因                           | ×  | 2017年度比、3%削減                         | P.13         |
|                                      | 廃棄物の最終処分率                             | 2020年度までに、0.1%未滿を達成                  | 0.03%   | ○  |                                      |              |
| 環境負荷物質の大気汚染防止                        | 環境負荷物質排出量                             | 2010年度比、21%削減(2020年度までに2010年度比30%削減) | 18.3%削減   | ×  | 2010年度比、24%削減(2020年度までに2010年度比30%削減) | P.14         |
| 環境配慮(廃棄物削減、省エネなど)と環境管理の改善と環境配慮型の商品開発 | 環境配慮率*<br>※(エネルギー使用料+廃棄物処理費)÷生産金額×100 | 前年度実績以下                              | 対前年度比0.003%増加                                   | ×  | 前年度実績以下                              | P.13         |
|                                      | 環境リスクの特定と対策立案                         | 老化対策・工場再編による環境リスクと環境負荷低減             | 環境負荷低減につながる設備の導入・改造などを計画・実施                     | ○  | 老化対策・工場再編による環境リスクと環境負荷低減             | P.27         |
|                                      | 環境配慮型製品の上市・販売                         | 社内目標による                              | 生分解性フィルム、高断熱性能熱伝導率を有する建築用断熱材等環境配慮型製品の販売目標、上市を達成 | ○  | 環境負荷を考慮した商品開発・研究開発の推進・上市             | P.7<br>P.8   |

## 環境負荷の全体像

アキレスグループでは、事業活動に伴う物質・エネルギーのフローを定量的に把握し、会社の持続的発展に向けて、事業活動での環境負荷の低減、資源の有効活用に努めています。下記に、アキレスグループ製造工場の環境負荷の全体像を示します。

### ●マテリアルバランス



## 環境事故などに対する是正処置

2017年度は当社滋賀第二工場内のウレタンブロック搬送工程において火災事故が発生しましたが、所轄の消防関係者の皆様にご支援いただき消火されました。当社では、火災原因を追究し、恒久対策となる設備面、管理面の両面において発生箇所の是正処置を行うとともに、ほかの事業所においても同様に対策を進めています。

また、足利第二工場において、小規模な油漏えい事故が発生し、一部が構外の用水路へ漏えいしましたが、広域に広がることなく対処するとともに、恒久対策を実施し是正処置を完了しました。

また、2017年度の各事業場の水質、大気および騒音の実績値は、全て環境関連法規の基準値内でした。

## 意識啓蒙活動

環境保全活動は、従業員一人ひとりの意識と行動がなければ実施できません。

アキレスグループでは、環境意識向上のため、製造部門従業員全員に当社の環境方針などを記した「環境カード」を配布し、環境保全活動の重要性を周知しています。

また、新入社員研修、階層別研修などの実施や、専門知識の習得、資格取得にも積極的に取り組んでいます。

## 生物多様性への取り組み

### 生物多様性についての基本的な考え方

アキレスグループでは、人間社会が生態系から恩恵を受ける一方で、大きな負荷をかけていることを認識し、生物多様性の保全に貢献する取り組みを推進しています。

### 日光杉並木オーナー制度

日光杉並木街道は、およそ370年前に植えられた杉の巨木が日光街道・例幣使街道・西会津街道の三つの街道にまたがる壮大な杉の並木道です。三つの街道のうちの一つである例幣使街道が当社足利工場のある足利市を通っていることもあり、近年の周辺環境の悪化から杉並木を保護するための「日光杉並木オーナー制度」に賛同し、保全に協力しています。



日光杉並木

### 琵琶湖森林づくり基金への寄附

当社が製造拠点を置く滋賀県には、重要な水源である琵琶湖があります。また、琵琶湖をとりまく森林は琵琶湖や淀川流域の重要な水源林であると同時に多様な生物の生息域でもあります。

滋賀県では、この重要な環境を保全すべく森林づくり事業を推進しており、当社はこの活動を支援しています。



琵琶湖周辺森林での間伐イメージ (画像提供: 滋賀県)

## 水資源の保全

当社では、毎月排水の自主測定を実施し、使用後の排水を環境影響のない状態で河川へ排出しています。なお、当社足利第二工場および滋賀第一工場、昆山阿基里斯人造皮有限公司では、工業用水の一部を循環使用しています。

### 「水質事故被害拡大防止訓練」へ参加

当社では、滋賀県ならびに湖南・甲賀環境協会などが万が一の事故発生を想定して行っている「水質事故被害拡大防止訓練」

に積極的に参加し、琵琶湖を含む周辺の環境保全の重要性を再認識しています。2017年10月6日に行われた訓練は、協会会員・県・市環境行政など総勢132人が参加しました。



オイルフェンスによるせき止め訓練  
(滋賀県)  
画像提供：湖南・甲賀環境協会

## 地球温暖化対策

### 温室効果ガス排出量の削減

アキレスグループが排出する温室効果ガスは、エネルギー使用(燃料、電気など)と、硬質ウレタンフォーム製造(フロン系をCO<sub>2</sub>に換算)に伴う二酸化炭素排出が主体です。

2017年度は、「温室効果ガス排出量を2010年度比7%削減」を目標に、積極的な環境設備投資によるエネルギー使用量の削減と、硬質ウレタンフォームのノンフロン品種への切り替えを進める活動をした結果、温室効果ガス排出量は2010年度比5.2%(1990年度比約87%)削減することができましたが、目標は未達成でした。

#### 📖 P27 温室効果ガス排出量推移

※「やまがた太陽と森林の会クレジット(J-クレジット)」より購入した排出削減量320t-CO<sub>2</sub>は差し引いていません(P22参照)

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社

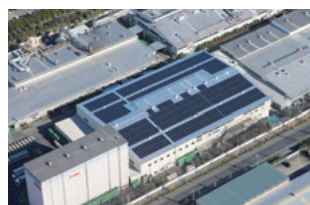


### 太陽光発電によるエネルギー創生

当社の太陽光発電設備容量は、2012年度の初回設備導入以後2回の設備増設を経て、足利・滋賀合計で1,535kWです。

2017年度の発電電力量約1,795千kWhは、CO<sub>2</sub>排出量の削減効果約706t-CO<sub>2</sub>となり、2017年度のエネルギー使用によるCO<sub>2</sub>排出量の約1.6%に相当します。

#### 📖 P27 太陽光発電設備



アキレス株式会社足利第二工場  
(2012年設置)



アキレス株式会社足利第二工場  
(2014年設置)



アキレス株式会社滋賀第二工場  
(2012年設置)



アキレス株式会社滋賀第二工場  
(2014年設置)

## 物流の環境保全活動

### 二酸化炭素削減活動と排出量実績

2017年度の取り組みとして、モーダルシフト\*1の拡大展開、および積載率・大型車利用率の向上を推進し、輸送に関わるエネルギー原単位は約2.2%好転しましたが、生産量増による輸送トンキロ\*2の増加に伴いCO<sub>2</sub>排出量\*3は約2.4%増加となりました。

※1 貨物輸送をトラックから鉄道や船に換えること。一度に大量の貨物を輸送することができ、CO<sub>2</sub>排出量を抑える効果が期待されています

※2 輸送トンキロ=貨物重量「トン」×輸送距離「キロメートル」

※3 CO<sub>2</sub>排出量(t-CO<sub>2</sub>)=エネルギー使用量(GJ)×排出係数(経済産業省より)



鉄道輸送用のコンテナへの積み込み

#### 📖 P27 輸送に伴う二酸化炭素排出量・モーダルシフト率

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場



## 省エネルギー

### 省エネルギー活動

アキレスグループでは、省エネルギー法に基づいた省エネルギー活動の重要性を認識し、環境負荷軽減の重点取り組み事項の一つとして全社を挙げ取り組んでいます。

#### エネルギー使用量(原油換算)

2017年度エネルギー使用量は、主なエネルギーである電気と燃料の使用量を低減することを目的に取り組みましたが、生産量増などに伴い前年度に対して約6.6%(1.7千kℓ/年)増加しました。

#### 📖 P27 エネルギー使用量(原油換算)の年度別推移

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社



#### エネルギー原単位

2017年度は、「2016年度エネルギー原単位実績に対し、1%削減」を目標に設備の効率化改造や省エネ設備の導入に取り組んできましたが、製品構成の変化や小ロット生産の増加により、

2016年度に比べ約0.12%の削減にとどまり、目標値には達しませんでした。今後も省エネルギー活動を継続し、前年度エネルギー原単位1%削減を推進していきます。

#### 📖 P27 全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場



#### 設備の改造・導入による使用エネルギー削減

2017年度は、高効率化機器への更新、既存設備の効率稼働、照明のLED化、足利第一工場でのレイアウト改善による事業の効率化などにより、使用エネルギー削減に取り組みました。

#### 📖 P27 設備の改造・導入の主な内容と使用エネルギー削減効果(原油換算値)

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場



## 3R活動と完全ゼロエミッション

### 廃棄物の削減に向けて

循環型社会の実現を目指して3R\*活動を推進しています。特に廃棄物の発生量自体の削減を目指す発生源対策(リデュース)を重視し根本原因を追究、廃棄物の発生抑制に注力しています。

\*廃棄物の発生抑制(リデュース)、部品などの再利用(リユース)、再生資源としての再利用(リサイクル)の略語

### 廃棄物等削減活動結果

2017年度は、「2010年度(基準年)廃棄物排出量実績に対し14%削減」を目標に活動したものの、1,852トン増加となり未達という結果となりました。生産量の増加や生産構成の変化が原因と考えられます。今後は、既存のリサイクルフローを見直し、廃棄物の分別・選別の徹底、有価物化や廃棄物の再製品化等を推進し、生産量の増加に対しいかにして廃棄物発生量を抑制するかを課題とし、廃棄物の削減に注力していきます。

#### 📖 P28 廃棄物等総排出量

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場



### 最終処分量状況

2017年度は、「完全ゼロエミッション(最終処分率\*0.1%未満)を2020年度までに達成」を目標に活動した結果、最終処分率は0.03%(約2.3トン)となり、2016年度の0.02%に引き続き、完全ゼロエミッションを達成しました。

今後も完全ゼロエミッションの継続を目指し、分別・選別のさらなる徹底およびリサイクルに取り組んでいきます。

#### 📖 P28 最終処分量および最終処分率

\*最終処分率(%) = 最終処分量 / 総排出量 × 100

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場



## 大気汚染防止

### 環境負荷物質の大気排出削減目標

アキレスグループは、「環境負荷物質の大気汚染防止」を全製造部門の共通テーマとしています。中長期目標としては「環境負荷物質の大気排出量を2010年度に対し、2020年度までに30%削減」を掲げ、労働安全衛生法、PRTR\*法および大気汚染防止法に基づき、大気排出量の計画的な管理・削減に取り組んでいます。

※Pollutant Release and Transfer Register：有害性のある多種多様な化学物質が、どこから、どのくらい、環境中に排出されたか、廃棄物として移動したかを把握し、集計・公表する仕組み

### PRTR法第一種指定化学物質削減

PRTR法に則り、該当物質の排出量などを把握した結果、2017年度のPRTR法第一種指定化学物質の排出量は488トン／年（2010年度比28.3%削減）、移動量は253トン／年（同37.5%増加）となり、排出量・移動量計741トン／年（同14.3%削減）となりました。

#### P28 PRTR法対象化学物質の排出量・移動量

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場／アキレスマリン株式会社

#### PRTR法対象化学物質の排出量・移動量

**約14%**  
削減  
(2010年度比)

### VOC大気排出量削減

PRTR法対象物質を含むVOC\*物質の中で特に大気への排出量の多い5物質（DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル）を「環境負荷物質」と定め、全製造部門でVOC物質から非VOC物質の代替物質への移行や排煙処理装置（RTO）導入による大気排出量の削減を推進しています。

2017年は、2010年度比21%削減を目標に取り組んだ結果、18.3%削減となり目標未達成となりました。

#### P28 環境負荷5物質の大気排出量

※Volatile Organic Compounds：揮発性有機化合物の略称。空气中に揮発する性質のある有機化合物

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場／アキレスマリン株式会社

#### 環境負荷物質の大気排出量

**約18%**  
削減  
(2010年度比)



# 社会と共に

アキレグループは製品やサービスを通じて、より豊かで快適な社会づくりに貢献することを目指しています。また、さまざまなステークホルダーとの対話を通して取り組むべき課題を特定し、その対応に努めることで、社会の持続的発展に貢献したいと考えています。そして「アキレス調達基本方針」を定め、法令遵守や人権尊重などを含む企業の社会的責任(CSR)への取り組みをサプライチェーンに広める努力を行っています。

## 品質への取り組み

### 品質への考え方とマネジメントシステム

アキレグループでは、「製品の安全性と品質の確保」を全従業員が徹底するよう、「アキレス行動指針」を定めています。またお客様のニーズや市場動向を的確に捉え、お客様に満足していただける製品・サービスを提供する仕組みの基準として、全事業部で品質マネジメントシステムの国際規格(ISO 9001)を取得し運用しています。そして「品質マニュアル」で、各事業部の事業部長が品質保証の責任者として品質目標を設定し、安全で安心な製品・サービスの提供に努めることを定めています。また品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。

### アキレグループ品質基本方針

当社は、「社会との共生」=「顧客起点」の企業理念に基づき、顧客や消費者の立場に立って顧客満足を得られる製品を提供すると共に、製品の安全性確保や関連する法令等を遵守し、社会的責任を果たす為に下記の基本方針を定めます。

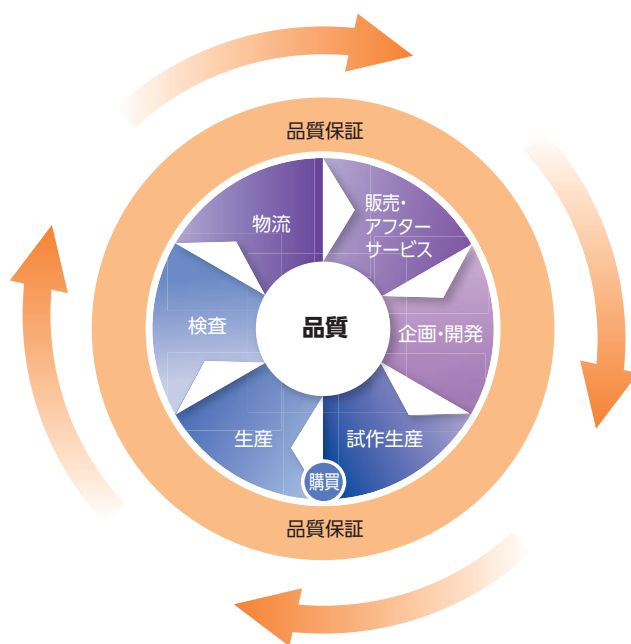
1. 全員が市場の声に耳を傾け、顧客のニーズに応えた魅力ある製品・サービスを提供する。 **【顧客満足の向上】**
2. 使用時の安全性確保は製品の品質保証の中でも重要事項である事を認識し、製品の設計、製造、販売など全工程にわたって製品安全の確保に努める。  
**【製品安全の確保】**
3. 製品に係わる法令及び当社が同意した規格、顧客基準を遵守する。 **【法令遵守】**
4. 環境負荷低減に配慮した製品の設計、製造、販売活動を行う。 **【環境への配慮】**
5. これらの活動を効果的・効率的に行うために業務を見直し、継続的な改善を進める。 **【継続的改善】**

### ●ISO 9001 : 2015登録状況

| 登録組織名              | 登録年月     | 登録番号         |
|--------------------|----------|--------------|
| アキレス(株)シューズ部門      | 2007年10月 | JUSE-RA-2088 |
| アキレス(株)プラスチック部門    | 2003年 4月 | JUSE-RA-2090 |
| アキレス(株)産業資材部門      | 2004年 2月 | JUSE-RA-2089 |
| ACHILLES USA, INC. | 1998年 4月 | 33354        |

### 品質保証の仕組み

当社の品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。



#### 企画・開発

- お客様からのご要望および安全・安心を考慮した製品設計を検討しています。
- 素材および使用材料の安全性の検証をしています(使用禁止・制限化学物質、および健康に影響を与える物質を含まないことを確認)。
- 製品の加工時、施工時、および使用時を想定した要求物性への適合試験を実施しています。
- プロセスごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。

#### 購買

- 企画・開発、製造部門と連携し、使用する材料の安全性、環境性、および調達先の品質保証体制などを調査した後、購買品を選定しています。
- 調達先には「アキレス調達基本方針」の遵守を促すことで、企業の社会的責任(CSR)への取り組みをサプライチェーンに広めています。また調達活動においていかなる違反行為にも加担しません。



**生産**

- 製品ごとに生産ラインに適した工程管理と検査方法を定め、効率生産と品質安定化を推進しています。
- 地球環境への負荷低減を図るため、地球温暖化防止と省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動や大気汚染防止などを推進しています。
- 製品の品質向上および技能レベル向上を目的に、全ての従業員に対し教育指導を実施しています。
- 製品ごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。

**販売・アフターサービス**

- お客様からの当社製品・サービスへのご相談やお問い合わせは、販売担当部署でお受けする以外に「お客様相談室」でもお受けしています。いずれの窓口でも、お客様のお声に耳を傾け、迅速に対応するように努めています。
- 想定外の重大問題が予想される場合は、お客様の安全を第一に考え、情報開示と迅速な対応を行います。
- 環境対応設計製品に関しましては、お客様が類似他品との環境効果を容易に比較できるように努めています。

**労働安全衛生・防火防災への取り組み**

**労働安全衛生の考え方とマネジメントシステム**

**アキレスグループ安全衛生方針**

「安全の誓い」にうたわれている、「健康にして、安全の確立こそ、会社発展の源であり、私たちの明日への生活向上の基盤であります。私たちは、安全を確保し、人の和を築き、私たちの明日への活力を生み出すことを日々心新たに誓います。」のように、安全と健康の確保は事業活動の基本であり、安全で働きやすい職場環境を確保するために、次の事項を実施します。

1. 安全は全ての基本であり、アキレスグループ従業員一人ひとり、安全を全てに優先します。
2. 安全と心身の健康確保のため、全員参加で、安全衛生活動を積極的に推進します。
3. 安全衛生に関係する法令および会社方針・規則等を遵守します。
4. 安全衛生水準向上のため、労働安全衛生マネジメントシステム等を適切に活用し、継続的改善を図ります。
5. 日ごろより、5S(整理・清掃・整頓・清潔・躰)を欠かさず、安全で衛生的な職場環境を維持します。
6. 全ての従業員に対して、安全衛生の重要性を周知し、必要な教育・訓練を実施します。

**主な安全衛生管理活動**

**安全衛生**

当社では、各事業場で安全衛生委員会を設置し、従業員へは法・指針に基づいた安全衛生教育の実施、法に基づく各種有資格者の養成など、安全衛生体制を確立しています。また、作業・設備のリスクアセスメントを実施し、結果に基づく改善を行い、本質安全化を図っています。



フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育(足利工場)

**●安全衛生委員会委員割合**

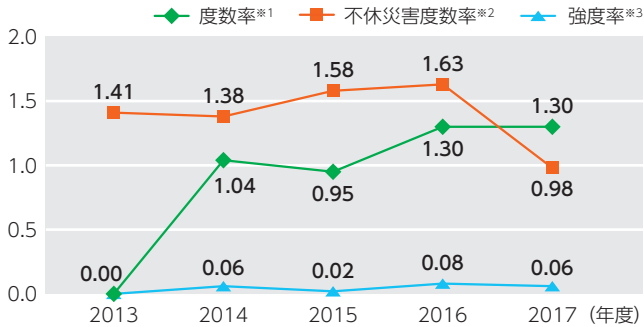
| 事業場                  | 安全衛生委員(人) | 従業員数(人) | 従業員に対する安全衛生委員の割合(%) |
|----------------------|-----------|---------|---------------------|
| 本社                   | 12        | 301     | 4.0                 |
| 関西支社                 | 6         | 80      | 7.5                 |
| 足利第一工場               | 19        | 564     | 3.4                 |
| 足利第二工場               | 16        | 267     | 6.0                 |
| シューズ物流センター<br>東日本物流課 | 7         | 59      | 11.9                |
| 滋賀第一工場               | 12        | 93      | 12.9                |
| 滋賀第二工場               | 14        | 119     | 11.8                |
| 合計                   | 86        | 1,483   | 5.8                 |

※2018年3月31日時点

## 労働災害の状況

2017年度の当社における労働災害の発生状況は、下記の通りです。2017年度の製造業（従業員1,000人以上）の平均度数率0.25、平均強度率0.01に対し、当社は、度数率1.30、強度率0.06でした。

### ●度数率・不不休害度数率・強度率(単体)



※1 度数率=労働災害死傷者数÷延べ実労働時間数×1,000,000

※2 不不休害度数率=不不休害者数÷延べ実労働時間数×1,000,000

※3 強度率=延べ労働損失日数÷延べ実労働時間数×1,000

## 安全意識の啓発

当社では、安全への意識高揚のため、年間行事として年2回の安全祈願（年初と全国安全週間初日）を実施し、年間を通じて各種無災害運動（全国安全週間、年末年始、期末）、交通安全運動を実施しています。2017年度は足利地区、滋賀地区において、所轄の警察署の協力により交通安全講話を実施しました。また社員が各自記入した「安全の誓い」を各職場に年初から掲示し、社員への安全意識の啓蒙を図っています。



安全祈願(足利工場)

## 健康管理

当社では、定期健康診断および特殊健康診断およびストレスチェックを実施し、結果に応じて産業医・看護師による事後対応の指導を実施しています。健康診断結果以外にも社員の心と身体の悩みに対して、産業医などによるメンタルヘルスカケア、健康相談・指導を実施しています。また、THP（トータル・ヘルスプロモーション・プラン）推進活動として、各種健康増進イベントへの参加を促進しています。



健康づくり講演会(足利市)



健康づくり実践教室(足利市)

## 防火・防災の考え方とマネジメントシステム

### アキレスグループ防火・防災基本方針

防火・防災は企業の基本管理項目であり、火災発生や地震に代表される自然災害を被ると、それまでの状況が一変して会社存亡の危機に直面することがあります。また、地域住民に多大な迷惑をかけ社会公共の福祉の増進にも反します。

アキレスでは、日頃から緊急事態に備え、身体及び財産を保護する予防措置を講じ、災害発生を未然に防止すると共に、万一発生した場合の人的・物的被害を最小限に抑えることに努めています。

### 総合防火・防災訓練

当社では、各地区で防火・防災委員会を設け、各事業場においては、防火・防災意識の啓発・高揚および防火活動に関する技術の習得を目的とした、総合防火・防災訓練を毎年定期的に行っています（製造部門社内火災予防運動は年3回実施、本社・関西支社防災訓練は年1回以上実施）。

2017年度は足利第一工場において、所轄の消防署との連携で総合防災訓練を実施しました。訓練では、震度6強を想定した、初動対応、通報、避難、安否確認訓練などを実施しました。また消防車による放水訓練と煙体験訓練を実施しました。



足利第一工場での総合防災訓練

### 心肺蘇生法講習会

2017年度は、足利第一工場および滋賀第二工場において、所轄の消防署による心肺蘇生法（人工呼吸、心臓マッサージ、AED機器の取扱訓練）の講習会を行いました。



滋賀地区での心肺蘇生訓練

### 食料など備品の備蓄

当社の各事業場では、震災などの有事に備えた食料などの備品を備蓄しています。

## お客様と共に

### 基本的な考え方

当社は「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献することを目指しています。また、お客様の顕在的・潜在的ニーズを把握するため、お客様との対話の機会を大切に考えています。その役割を担う窓口の一つとして「お客様相談室」を設けています。

### 対応品質向上への取り組み

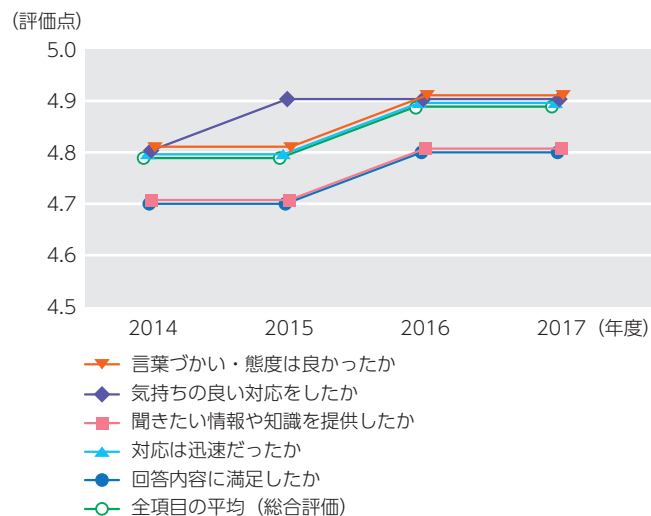
お客様相談室では2017年度は「お問い合わせ」と「ご意見」を合わせて、5,475件のお電話やメールなどをいただきました。

また、お客様相談室では、対応品質向上に向け、2012年度より、お客様アンケートによる対応品質評価の把握と改善活動を行っています。アンケートでは、①言葉づかいや態度②気持ちの良さ③情報や商品知識の提供④迅速さ⑤満足度——の5項目を5段階で評価していただいています。

2012年度の全体の評価点は4.5でしたが、毎月度、担当者別・項目別の点数を確認し合い、お互いに問題点を指摘し合いながら改善を重ねており、2017年度の全体の評価点は、前年度に引き続き4.9でした。

また、電話対応品質の向上を目的に、部員全員の電話モニタリング調査を行いました。各自の電話対応状況について、専門の第三者に客観的な立場で分析・評価を行っていただきました。総合評価としては他社平均を上回っていましたが、部員別に指摘された事項を課題として、日々の対応業務の中で改善に努めています。

#### ●お客様アンケートによる対応品質評価の推移



### 大学生への啓発活動

当社は、消費者課題に取り組んでいるACAP\*に所属しています。この活動を通じて、明治大学や立正大学などの4校で、「企業におけるお客様相談室の役割」「お客様の声を製品やサービスの改善に生かす取り組み」などをテーマとして、講演を行いました。間もなく社会人になる大学生に向けて、企業人の立場から、また一消費者の立場から、持続可能な消費活動のあり方と必要性などをお話ししました。

※ACAP：消費者関連専門家会議。  
(約580社が参加)  
<http://www.acap.or.jp/>

立正大学での講演(東京都品川区)



### お客様とのコミュニケーション強化

お客様との距離を近くし、接点を増やすための取り組みも進めています。

特にシューズのお問い合わせが多いことをふまえ、「シューフィッター」(足と靴の専門資格)の取得を進め、2018年3月末時点では、お客様相談室の従業員4人全員が「シューフィッター」となりました。その知識を活用しながら、単なるクレームやお問い合わせへの対応だけでなく、お客様からの靴に関連するさまざまなお悩みなどへの相談にもあたっています。シューフィッターとしての対応は、他社との大きな差別化にもつながっています。

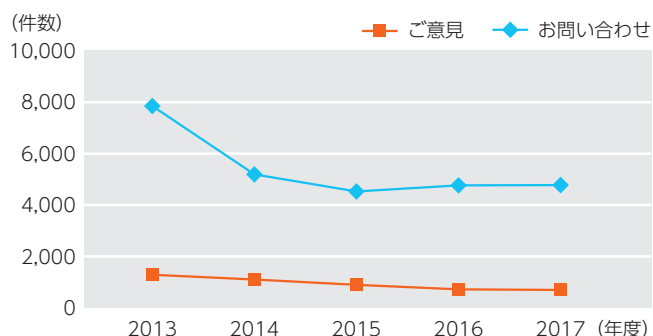
そして、以前から実施している「足育(そくいく)相談室」の活動も、さらに活発化させています。当社ショールームに来社いただいで「足型測定とカウンセリング」を行うサービスと、小学校などに出向いての足と靴に関する「出前講座」も、引き続き好評をいただいています。

2017年度は「出前講座」を47件実施し、聴講者数は2,538人でした。2014年度からの累計では、実施件数が127件、聴講者数は6,254人となっています。

埼玉県白岡市立大山小学校での靴の履き方練習



#### ●お客様相談室に寄せられるお問い合わせとご意見の件数推移



## 株主様と共に

### 基本的な考え方

当社は、企業価値の向上に努め、存在意義を示し、株主・投資家の皆様のご期待に応える会社を目指しています。株主・投資家の皆様に対しては、法令を遵守した方法で、タイムリーに、公正で正確な情報を分かりやすく開示することに努めています。そして、情報開示を含むIR活動を通して、株主・投資家の皆様との対話を行っています。

### 報告書・中間報告書

当社ではホームページでの情報開示と併せて、事業概要を分かりやすくとりまとめた報告書を株主の皆様へ半年ごとに年2回お送りしています。報告書では、アキレスの代表取締役社長からの事業環境および業績概要の説明に加え、連結財務諸表、各事業の業績・新商品情報、ならびにアキレスグループのトピックスなどをご案内しています。

また当社では、毎年6月に定時株主総会を開催し、株主の皆様と直接対話を行っています。株主総会終了後には、新商品・新技術をご紹介します、株主の皆様から直接ご意見をうかがう機会を設けています。



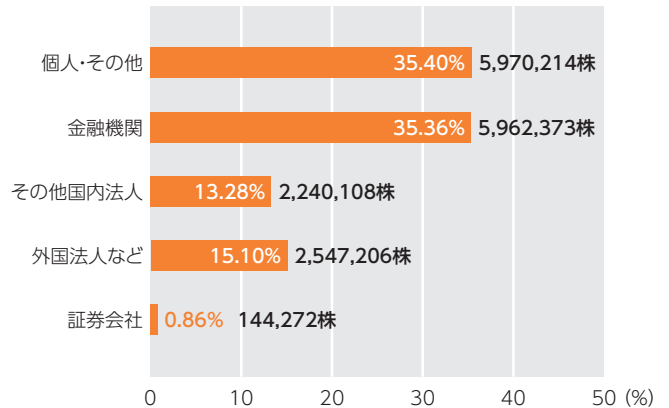
株主の皆様への報告書

### 株式の状況

#### ●株式の総数など ※2018年3月31日現在

|           |             |
|-----------|-------------|
| 発行可能株式総数  | 70,000,000株 |
| 発行済み株式の総数 | 17,462,714株 |
| 株主数       | 12,598人     |

#### ●株式分布状況 ※2018年3月31日現在



※上記のほか、当社保有の自己株式598,541株があります

## 取引先様と共に

### 基本的な考え方

アキレスグループは「企業行動憲章」に従い、法令遵守はもとより倫理的な行動に努め、公正かつ自由な取引を通じてお取引先様と長期的な信頼関係を構築し、相互協力により共存共栄の

関係を図っております。また、「アキレス調達基本方針」を定め、環境に配慮した持続可能な調達と法令遵守ならびに人権尊重などへの取り組みをサプライチェーン全体に広めています。

### アキレス調達基本方針

#### 基本方針

1. 公正・透明な取引
2. 企業倫理および関連法令の遵守
3. 環境への配慮、保安防災への取り組み
4. 人権尊重、児童労働・強制労働の禁止、労働・安全衛生の配慮
5. 製品・サービスの安全性・品質の確保
6. 個人情報・製品情報を含む情報セキュリティの維持・推進
7. お取引先様との共存共栄
8. お取引先様の知的財産・資産等の適正管理
9. 紛争鉱物\*問題への対応

#### お取引先様の選定方針

1. 経営状態が健全であること。
2. 安定供給と生産変動への柔軟な対応力があること。
3. 左記基本方針を含め社会的要請に配慮する取り組みを行っていること。
4. 価格・品質・納期・技術力・サービスのレベルが適正であること。

\*その採掘や取引が武装集団の資金源となり紛争を助長、あるいは人権侵害、労働問題などに密接に関連している鉱物。2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」において、コンゴ民主共和国および隣国において産出される鉱物のうち、タンタル、錳、金、タングステン、そのほか国務省が判断する鉱物が紛争鉱物とされた。また米国上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合は米国証券取引委員会(SEC)に報告することが義務付けられた。

## CSR 調達の取り組み

当社では年に1回、取引先審査を実施して調達基本方針の遵守のチェックを行っています。また2017年度は取引先様に期待する取り組みをガイドラインとして加えた「CSR調達アンケート」を、主要取引先様に対して実施しました。サプライチェーン全体のCSR活動の実効性がさらに向上することを目指しています。



CSR調達アンケート

交換を重ねることで、イノベーションにつなげたいと考えています。2日間で約2,400人の方々が登場されました。

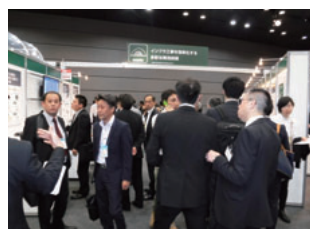
また、2018年度も「Achilles THE NEXT」の開催を計画しています。当社の各種コア技術を組み合わせ合わせた独自の価値をご披露できるよう、全員参加で準備を進めています。



「Achilles THE NEXT」社内ポスター

## 取引先様との対話

当社は、2017年5月に「Achilles THE NEXT」を開催しました。会場では当社の製品や技術を広くご紹介し、ご来場者様と意見



会場風景



プレゼンテーション風景

## 従業員と共に

### 基本的な考え方

アキレスグループは、従業員を重要なステークホルダーと位置づけています。「企業行動憲章」で「従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい健康的な職場環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します」と定め、その実践として必要な制度や活動内容を決定し推進しています。その根幹にある考え方は、従業員との「共存共栄」です。

### 人権尊重・公平

アキレスグループは、法のもとでの雇用関係を遵守し、違法労働や児童労働、性的差別、人種差別、宗教的差別などの人権侵害を行いません。またこれらの行為に加担しません。「アキレス行動指針」において、人権尊重を含む倫理的行動および遵法をグループの全従業員が誓約しています。

アキレスグループでは、全ての従業員に対し公平・均等に機会を与えるように努めています。パワーハラスメント・セクシャルハラスメントを禁止し、社内外に相談窓口を設けています。

### 雇用の状況

アキレスグループでは、安定した雇用の維持と雇用機会の拡大を図るため、計画的な雇用に努め、均等な雇用機会を提供しています。

●従業員数(連結) ※2018年3月31日現在

|    |        |    |      |    |        |
|----|--------|----|------|----|--------|
| 男性 | 1,375人 | 女性 | 332人 | 合計 | 1,707人 |
|----|--------|----|------|----|--------|

●従業員基本データ(単体) ※2018年3月31日現在

|      |          |          |          |
|------|----------|----------|----------|
| 平均年齢 | 男性 41.1歳 | 女性 43.7歳 | 全体 41.5歳 |
| 勤続年数 | 男性 19.2年 | 女性 22.9年 | 全体 19.8年 |
| 平均年収 | 約590万円   |          |          |

●人材(単体) ※2018年6月28日現在

|             |         |       |         |
|-------------|---------|-------|---------|
| 役員(執行役員を含む) | 男性 25人  | 女性 1人 | 合計 26人  |
| 部長職         | 男性 43人  | 女性 0人 | 合計 43人  |
| 課長職         | 男性 207人 | 女性 4人 | 合計 211人 |

●定年退職者再雇用制度(単体) ※2018年3月31日現在

|             |      |
|-------------|------|
| 2017年度制度利用者 | 126人 |
|-------------|------|

### 個人情報保護

アキレスグループでは、個人情報管理規定を設け、そのうち「従業員の個人情報管理」に関する部分を独立した条文として、従業員の個人情報を保護・管理しています。また「従業員の個人情報」については、社内システム上で複数階層のセキュリティを設定し、アクセス可能な人員を限定しています。

### 福利厚生

当社では、各地の事業場所在地において、独身寮、社宅などの施設および、社員持株制度などによる社員生活安定の支援を行っています。また少子高齢化社会における仕事と家庭の両立支援策として、育児・介護休業制度などを設けています。

●育児休業制度(単体)

|             |       |       |       |
|-------------|-------|-------|-------|
| 2017年度制度利用者 | 男性 0人 | 女性 9人 | 合計 9人 |
|-------------|-------|-------|-------|

●介護休業制度(単体)

|             |    |
|-------------|----|
| 2017年度制度利用者 | 0人 |
|-------------|----|

●年間平均総実労働時間(単体)

|          |           |
|----------|-----------|
| 2017年度実績 | 1,984.5時間 |
|----------|-----------|

●平均有給休暇取得日数(単体)

|          |             |
|----------|-------------|
| 2017年度実績 | 9.9日(54.4%) |
|----------|-------------|



独身寮/本社

## 労働組合

### 労使関係

当社には、アキレス労働組合とアキレス本社労働組合の2つの労組があります。共に労使の相互信頼をベースに、会社方針に則り会社発展に貢献することで、従業員の生活維持・向上につなげていくとの基本方針のもと、充実した労使のコミュニケーションを図り、労使協調した取り組みを進めています。

アキレス労働組合には、製造部門で働く従業員(役員、管理職を除く)843人\*が加入しています。また、アキレス本社労働組合には、営業部門で働く従業員(役員、管理職を除く)253人\*が加入しています。

\*2018年7月1日時点の加入員数

### 労働組合との協議状況

当社では、年2回の給与および賞与の協議と関連し、年3回の運営協議会(5月、9月、11月)を定例的に開催しているほか、人事諸制度の変更や福利厚生に関する内容など労働条件に関する変更や新設などは、労使で協議し、合意の上で実施しています。また、安全衛生、環境、資格制度、再雇用など、労使双方による委員会での検討し、公平かつ適正な運用を図っています。

#### [主な労使協議]

運営協議会(年3回) 本部労使協議(原則月1回とし、都度実施)  
 支部労使協議(原則月1回とし、都度実施) 支部協議(都度実施)

### 労使共催行事

当社では、健康増進・コミュニケーション向上などを目的とした労使共催の行事により、労使間の交流を図っています。新入社員を迎えるソフトボール大会・ボウリング大会は定例行事となり、所属部署の枠を超えて従業員同士の親睦を深めるコミュニケーションの場となっています。



赤い羽根共同募金活動(足利地区)



新入社員歓迎ボウリング大会(東京本社)



みかも山ウォーク・いちご狩り(足利地区)



大阪府箕面大滝ウォークラリー(滋賀地区)



ハラスツプラン55オセミナー(足利地区)



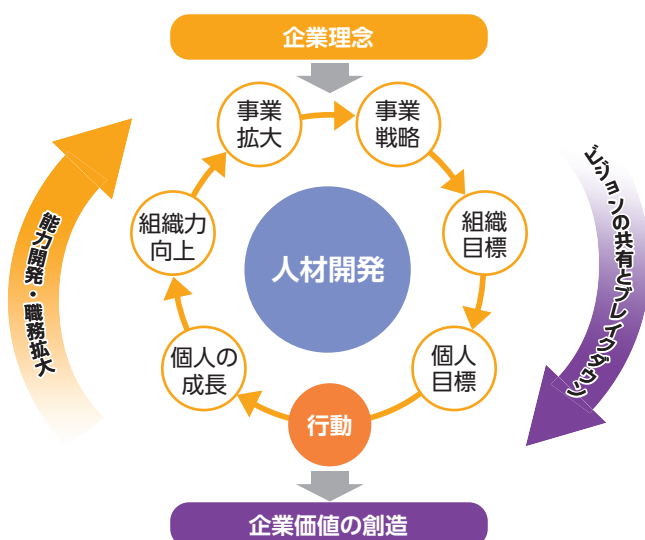
ソフトボール大会(足利地区)

## 人材開発

変化の激しい社会環境の中で生き残っていくためには、社員一人ひとりの人間力の向上を図り、企業価値を次々と創造し続ける集団になることが必要です。そのために、当社では人材開発を積極的に推進しています。「人」という経営資源のパフォーマンスを向上させるとともに、一人ひとりの成果を組織成果に結び付けることで組織全体を活性化し、社員がその能力を存分に発揮しながら生き生きと働ける環境を創り出しています。アキレスグループは、社員一人ひとりの人間力の育成とそれを生かせる組織づくりに取り組んでいます。

### 人材開発基本方針

1. 明確なビジョンを描き、その達成のために適切なリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
2. リーダーの描くビジョンを実現するため自ら問題を発掘してその解決を図り、仕事の付加価値を高めることのできる人材を育成する。



## 人材開発体系

当社の人材開発は「人材開発基本方針」のもと、社会に必要とされる企業であり続けるために、企業価値の持続的向上に資する幅広い知識・経験と複数の専門性を兼ね備えたリーダーの育成を目指しています。

### OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング=業務内指導)

当社の人材開発の基本はOJTです。上司と連携して業務目標を決め、課題達成にチャレンジし、適時にレビューを行います。コミュニケーションを通して気づきを促し視座を高めていきます。

### Off-JT(オフ・ザ・ジョブ・トレーニング=集合研修)

当社では、各自の役割に応じて求められるスキルや専門知識の習得は、集合研修で支援しています。



異業種交流研修風景(東京本社)



品質保証研修風景(足利工場)

### SD(セルフディベロップメント=自己啓発)

当社では、社員の能力向上意欲に敬意を表し、補助金支給制度を設けて通信研修を奨励しています。これにより一人ひとりが必要と考える科目を選択し、自分の能力向上につなげています。

### ●教育研修体系(単体)

|          | 役員 | 事業部長 | 部長 | 課長 | 各階層 | 新人 |
|----------|----|------|----|----|-----|----|
| 幹部育成     |    |      |    |    |     |    |
| グローバル    |    |      |    |    |     |    |
| 管理職      |    |      |    |    |     |    |
| 階層別      |    |      |    |    |     |    |
| コンプライアンス |    |      |    |    |     |    |
| 専門性      |    |      |    |    |     |    |
| OJT支援    |    |      |    |    |     |    |
| 自己啓発     |    |      |    |    |     |    |

### ●2017年度の主な集合研修

| 研修区分           | 研修数         | 参加者数           |
|----------------|-------------|----------------|
| 幹部育成研修         | 35回         | 604人           |
| グローバル研修        | 22回         | 532人           |
| 管理職研修          | 12回         | 178人           |
| 一般職研修(うち、新人研修) | 40回<br>(5回) | 430人<br>(125人) |
| コンプライアンス研修*    | 5回          | 2,798人         |
| 専門性向上研修        | 24回         | 243人           |
| 通信教育           | 1回          | 179人           |
| 安全衛生研修         | 10回         | 254人           |
| 災害対応研修         | 2回          | 48人            |

※コンプライアンス研修はアキレス国内グループ全従業員の実績です。ほかの研修はアキレス株式会社の従業員の実績です。なお、参加者数は、研修区分内の各研修テーマに参加した従業員数の合計です。

## 地域社会と共に

### 地域社会の一員としての取り組み

アキレスグループは、CSR重要テーマの一つとして、地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献することに取り組んでいます。当社では、拠点を置く地域において、教育機関の見学・研修の受け入れや防災訓練への参加、各種イベントへの協賛など、地域団体と共同で地域活性化に協力しています。

### やまがた太陽と森林(もり)の会クレジット[山形県]

山形県では、県民が家庭などに設置した太陽光発電設備または木質バイオマス燃焼機器により削減された温室効果ガスを集約し、政府のJ-クレジット制度\*の認定を受け、CO<sub>2</sub>削減量として入札を通じて企業などへ販売を行っています。

当社グループは山形県に拠点があり、地域社会への貢献と

CO<sub>2</sub>削減活動の一環として、2017年度に実施された入札募集に応募し320t-CO<sub>2</sub>を購入しました。購入したCO<sub>2</sub>削減量は当社グループの事業活動によるCO<sub>2</sub>総排出量から差し引き、当報告書に記載しています。

※J-クレジット制度：再エネ機器の導入などによるCO<sub>2</sub>の削減量などを政府が認証する制度。認証を経ることにより市場での取引が可能となる。単位：t-CO<sub>2</sub>



山形県庁での契約締結式(山形県山形市)。  
吉村 美栄子山形県知事(右)と  
当社代表取締役社長 伊藤 守(左)  
(画像提供：山形県環境エネルギー部)

### 盛岡・北上川ゴムボート川下り大会【岩手県】

2017年7月23日「第41回盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」が開催される予定でしたが、天候の回復が望めず、安全を考慮し大会実行委員会運営事務局が当日の朝に中止を決定しました。

この大会は、完走艇数と参加者数で世界ギネス記録を持つ大会です。美しい自然と触れ合いながら地域経済の活性化に役立つイベントとして、当社を含めた多くの団体や個人が支援を行っています。

### ラフティング世界選手権【徳島県】

日本初となるラフティング世界選手権が徳島県三好市を中心とする吉野川で開催されました。

大会には22カ国71チームが参加し、全チームが大会公認艇となった当社ボートを使用して操艇技術を競いました。当社は、急流でのラフティングに備え、1年以上にわたり日本代表チームと共同開発を行いました。また、大会期間中、当社は、メンテナンスサポートとして参加しました。

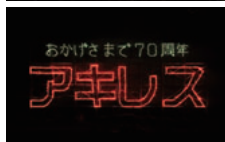
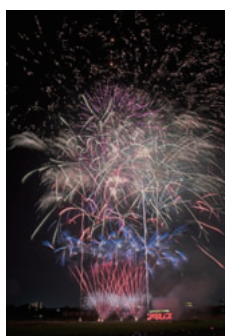
日本代表の成績は年齢別の8カテゴリー内で、男子マスターズと女子オープンが総合で金メダルに輝いたほか、各種目で多くのメダルを奪取しました。当社のレースモデルは海外チームからも好評でした。各国での競技でも採用してもらえるよう、さらなる進化を目指しています。



ラフティング世界選手権2017(徳島県三好市)

### 足利花火大会【栃木県】

2017年8月5日に足利商工会議所主催による「第103回足利花火大会」が開催され、アキレスグループも地元企業として協賛しました。同花火大会は1903年に始まった歴史ある大会で、毎年30万人規模の観客でにぎわいます。今回も約2万発もの花火が打ち上げられ、夜空が明るく染まるたびに観客から大きな歓声が上がっていました。



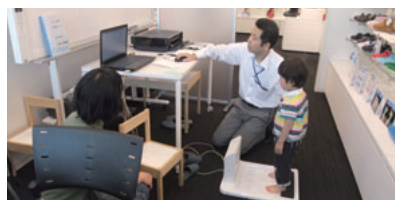
第103回足利花火大会  
(画像提供: 足利商工会議所)

### 足育(そくいく)活動【東京都・神奈川県】

当社本社ショールームでは、毎週火～金曜日の13:00～17:00に足育(そくいく)相談を実施しています(完全予約制)。また、全国各地の大型ショッピングセンター特設会場でも足育(そくいく)活動を実施するほか、ホームページの受付窓口などからの申し込みに応じて小学校などで出前講座を開き、足に合った靴の選び方、正しい靴の履き方などの情報を提供しています。

また、当社では、園児、小学生を対象とした「走ることへの楽しさ・親子での触れ合いの輪を広げる」イベントとして、「瞬足チャレンジ」を開催しています。このイベントは「瞬足」オリジナルコーナー走の大会です。この大会では、国連WFP\*の食糧支援を応援しています。参加1名につき給食1日分(30円)が寄附され、途上国での子どもたちの学校給食支援に充てられます。

※国連WFP: 国際連合世界食糧計画 (United Nations World Food Programmeの略称)は、食糧欠乏国への食糧援助と天災などの被災国に対する緊急援助を行うなど、経済・社会の開発を促進する国際連合の機関



当社本社ショールームでの「足育(そくいく)」相談  
(東京都新宿区)



イトーヨーカドー グランツリー武蔵小杉店での  
「足育(そくいく)」相談(神奈川県川崎市)



【第6回 瞬足チャレンジ2018】でのレース風景(東京都品川区・大田区)

### グリーン作戦【栃木県】

当社の足利工場では、定期的に事業場近隣の清掃活動を行っています。



足利工場周辺の清掃活動  
(栃木県足利市)





# マネジメントについて

当社の経営の基本方針は、「顧客起点」のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を實踐し、持続的に企業価値を高めていくことにあり、株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーに存在意義を示し、ご期待にお応えしていく会社になることを目指しています。この経営方針を実現するために、「経営の効率化」「経営の意思決定の迅速化」および「経営の公正性・透明性の確保」と併せて「経営のチェック機能の充実」を重要課題としています。また、経営の公正性と透明性を高めるために、積極的かつ迅速な情報開示に努めるとともに、インターネットを通じて財務情報の提供を行うなど幅広い情報開示にも努めています。

## コーポレートガバナンス

### コーポレートガバナンス体制

当社においては、取締役会が業務執行状況を監督し、業務執行については、各部門を担当する取締役もしくは部門長に責任と権限を与え、経営の効率的な運用を図っています。

また、2人の社外取締役が客観的・中立的観点から取締役会を通じて経営の監督機能を発揮するとともに、2人の社外監査役（うち1人は女性）が取締役会に出席し、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を社外の視点でチェックしており、十分に経営の監視機能を発揮しています。

※2018年6月28日の株主総会において、社外取締役1名増、社内監査役1名減とする決議を経て、上記の体制に変更しています。

#### 取締役会

経営の基本方針、法令で定められた事項、そのほか経営に関する重要事項の審議・決定を行うとともに、取締役の業務執行状況の監督を行っています。

#### 経営会議

意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図るために、取締役会に付議すべき事項の審議を行うほか、取締役会の決定方針に基づく具体的な執行方針やそのほか経営に関する重要な業務執行についての審議・決定を行っています。

#### 監査役会・内部監査・会計監査

監査役会は2人の社外監査役を含む3人の監査役で構成されており、各監査役は監査役会が定めた監査の方針・業務分担に従い、取締役会などへの出席、稟議書などの重要な資料の閲覧、子会社を含む事業所に赴くことなどにより、取締役の職務執行について監査しています。

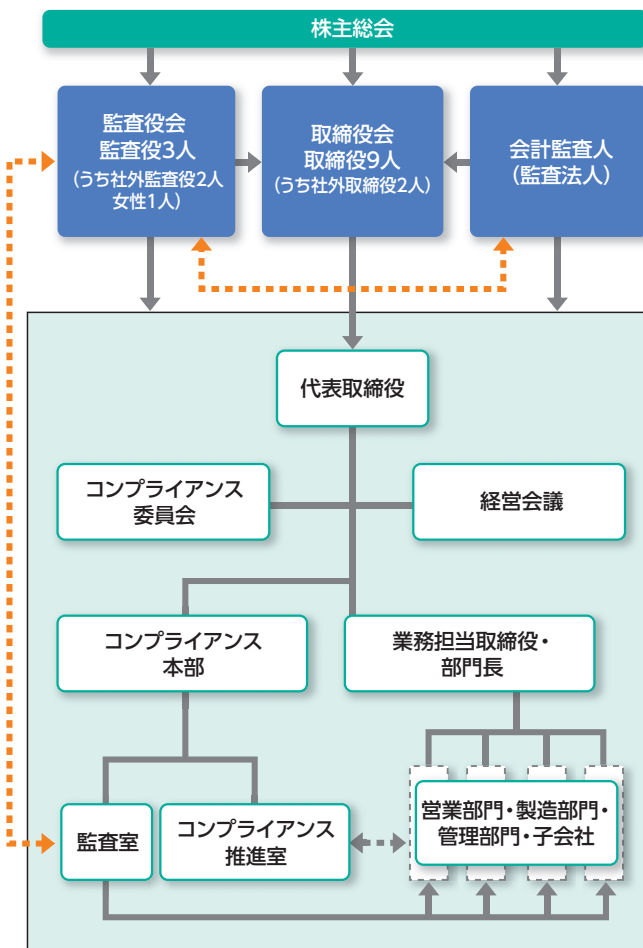
内部監査部門は、法令遵守状況を定期的および必要に応じ確認しています。また、監査役との連携を図り、監査役の効果的な監査業務の遂行に協力しています。

会計監査は、有限責任監査法人トーマツを監査人に選任し、監査を受けています。また、監査報告会を開催し、監査役会は会計監査人から監査実施状況、監査実施結果などの説明を受けるとともに、会計上と内部統制上の諸問題について助言を得ています。

#### 内部統制システム

当社では、取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、そのほか株式会社の業務ならびに当該株式会社および子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するための体制について、「内部統制の基本方針」を定めています。この方針に基づき金融商品取引法に定める財務報告に係る内部統制について、当社および連結子会社における整備・運用の評価を行い、その結果を内部統制報告書として公表しています。

●コーポレートガバナンス体制図



# コンプライアンス

## 基本的な考え方

アキレスグループでは、コンプライアンスを遵守し企業倫理を尊重する企業活動を基本原則として「企業行動憲章」を制定し、さらに具体的な基準として「行動規範」を定めています。役員および嘱託・パートタイマーなどの臨時従業員を含む全ての従業員に対して、「企業行動憲章」を理解し「行動規範」を守ることを求めています。

### 企業行動憲章

アキレスグループは、新たな価値を創り続けていくことで、豊かで快適な社会づくりに貢献し、高い信頼を得る企業を目指します。アキレスグループは、次の原則に基づき、国の内外において、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、持続可能な社会の創造に向けて、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていきます。

1. 市場・顧客ニーズの的確な把握に努め、安全性・品質・信頼性において優れた製品・サービスを開発・提供し、お客様の真の満足と信頼を獲得します。
2. 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行います。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
3. ステークホルダーはもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。また、自社の情報・知的財産・資産の保護・管理を適切に行うとともに、お預かりした個人情報・顧客情報など各種情報の保護・管理を適正に行います。
4. 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい健康的な職場環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。
5. 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動します。
6. 地域社会の「良き企業市民」としての責任を果たすべく、社会貢献活動に取り組み、豊かで快適な社会づくりに努めます。
7. 市民社会の秩序と安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底します。
8. 事業活動のグローバル化に対応し、各国・地域の法令の遵守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習、ステークホルダーの関心に配慮した事業活動を行います。

アキレスグループの役員は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、その徹底を図ります。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を整備・運用します。

本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努め、適切に是正措置と処分を行います。

## コンプライアンス推進活動

2017年度の主な取り組みは以下の通りです。

- ①コンプライアンス研修の実施
  - ・テーマ「契約(秘密保持、知的財産、契約範囲や管理など)」
  - ・テーマ「独占禁止法(カルテルなど)」
  - ・テーマ「コミュニケーション品質向上」
- ②従業員アンケートによるリスク調査の実施
- ③その他法令などの改正に伴う規定の適宜見直しと従業員への周知



本社(東京都)でのコンプライアンス研修

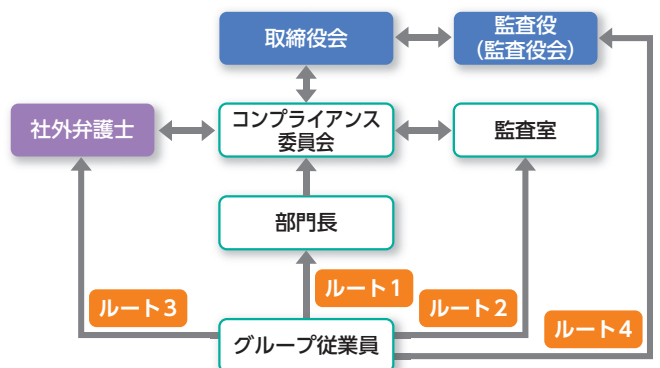
## 通報・相談制度

アキレスグループは、組織または個人による不正・違法・反倫理行為や「アキレス行動指針」に反する行為の発生、またはその恐れがあると判断したときに相談、あるいは通報することができる仕組みとしてホットライン(内部通報制度)を整備・運用しています。当社グループの取締役など経営層に関する事項を対象とした監査役直通の窓口を設けるなど受付窓口を複数設置することにより、違法行為などの早期発見と是正を図り、会社のリスクを最小限に抑えるよう努めています。また通報者が不利益な扱いを受けないことを社内規定で担保しています。

ホットライン以外にも、不定期に社内アンケートなどを実施・調査しているほか、「その他相談窓口」を全国4拠点に設け、従業員からの相談を受けています。

ホットライン、その他相談窓口、不定期アンケートにより確認された人権侵害については、定期的に開催しているコンプライアンス委員会にて協議の上、適切な対策を実施しています。

### ●ホットラインの仕組み



## CSR マネジメント

### CSRの基本方針

アキレスグループは、社会の一員としてステークホルダーとの対話を通じて、社会的課題の解決に役立つ活動の拡大に努め、社会の持続的発展に貢献します。

この方針のもと、7つの課題を「アキレスのCSR重要テーマ」と位置づけ事業活動を推進します。

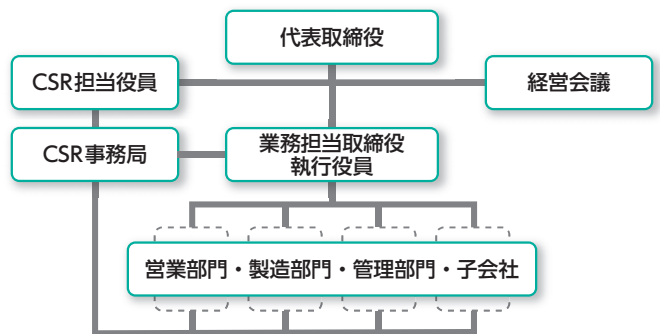
### CSR推進体制

当社は企業理念である「社会との共生」=「顧客起点」の実践こそが、当社のCSR戦略と位置づけ、業務担当取締役および執行役員が率先して企業理念に資する活動を推進できるよう、CSR担当役員がサポートしています。またCSR事務局は、コンプライアンス推進室と安全環境推進部が担い、CSR活動の支援および報告書の制作を行っています。



本社(東京都)での経営幹部を対象としたCSRセミナー

#### ●CSR推進体制の仕組み



### アキレスのステークホルダー

| 主なステークホルダー | アキレスグループの主な責任と課題  | 主な対話および情報開示の機会   |
|------------|---|--|
| お客様        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様満足度の向上</li> <li>●安心・安全な製品・サービスの提供</li> <li>●製品の取扱方法などに関する適切な情報提供</li> <li>●お客様への迅速かつ適切な対応</li> <li>●お客様(個人)情報の適切な管理</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●日常の営業活動(常時)</li> <li>●お客様相談室(お電話・メール受付)の設置(営業時間内常時)</li> <li>●ホームページ(常時)</li> <li>●イベント(展示会など)の開催(随時)</li> <li>●「足育(そくいく)」相談会</li> <li>●「足育(そくいく)」相談室(足型測定と出前講座)</li> </ul>  <p>当社ホームページ</p>  <p>当社本社ショールームでの「足育(そくいく)」相談室(東京都新宿区)</p> |
| 株主・投資家     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●適時・適切な情報開示</li> <li>●企業価値向上</li> <li>●議決権行使の尊重(株主総会)</li> <li>●IR活動</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページ(常時)</li> <li>●決算短信の発行(年4回)</li> <li>●四半期報告書と有価証券報告書の発行(年4回)</li> <li>●株主様への報告書の発行(年2回)</li> <li>●定時株主総会の開催(年1回)</li> <li>●「アキレスのCSR」(CSR報告書)の発行(年1回)</li> </ul>  <p>「アキレスのCSR」</p>   |
| 取引先        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●公正・公平な取引</li> <li>●オープンな取引機会</li> <li>●CSR推進への協力要請・支援</li> <li>●適切な情報提供</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●日常の調達活動(常時)</li> <li>●イベント(展示会など)の開催(随時)</li> <li>●情報交換会(随時)</li> <li>●CSR調達アンケート</li> </ul>  <p>Achilles THE NEXT 会場風景(東京都新宿区)</p>   |
| 従業員        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●人権の尊重</li> <li>●労働安全衛生への配慮</li> <li>●ワークライフバランスの促進</li> <li>●労使の相互信頼</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●労使協議会(随時)</li> <li>●トップからのダイレクトコミュニケーション(随時)</li> <li>●集合研修(随時)</li> <li>●講演会の開催(随時)</li> <li>●社内報</li> </ul>  <p>社内報</p>   |
| 地域社会       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の文化や慣習の尊重</li> <li>●事業場での事故・災害防止</li> <li>●地域社会への貢献活動</li> <li>●環境負荷低減</li> <li>●法令遵守</li> <li>●納税</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●工場見学の実施(随時)</li> <li>●ボランティア参加を含む社会貢献活動の実施(随時)</li> <li>●地域自治体との交流・意見交換(随時)</li> <li>●ヒアリング対応・情報提供など(随時)</li> <li>●産学官での協働などを通じた対話・連携・支援(随時)</li> </ul>  <p>CO<sub>2</sub>排出量削減クレジット契約の締結式(山形県庁)</p>  |

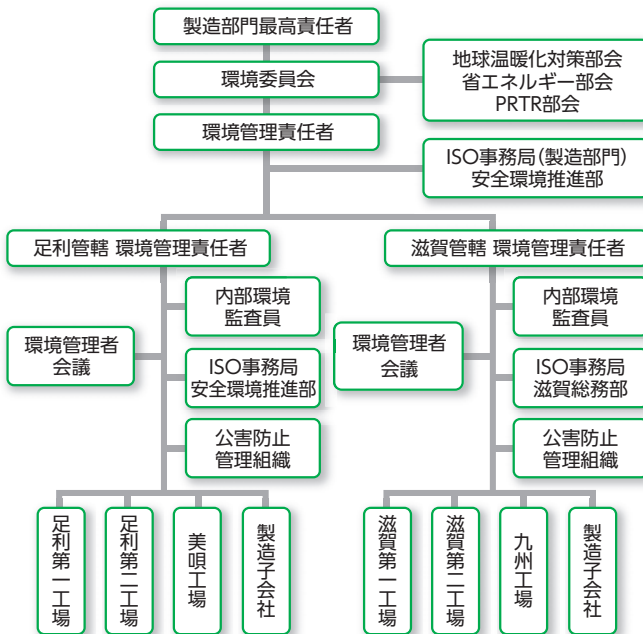
# データ編(環境のために)

## 環境マネジメントシステム

### ●ISO 14001:2015登録事業場 JUSE-EG-661

|                      |              |
|----------------------|--------------|
| ■アキレス株式会社足利第一工場      | 2001年9月 拡大取得 |
| ■アキレス株式会社足利第二工場      | 2000年7月 認証取得 |
| ■アキレス株式会社滋賀第一工場      | 2002年9月 拡大取得 |
| ■アキレス株式会社滋賀第二工場      | 2002年9月 拡大取得 |
| ■アキレス株式会社美唄工場        | 2002年9月 拡大取得 |
| ■アキレス株式会社九州工場        | 2002年9月 拡大取得 |
| ■アキレスマリン株式会社         | 2001年9月 拡大取得 |
| ■アキレスウエルダー株式会社       | 2001年9月 拡大取得 |
| ■関東アキレスエアロン株式会社      | 2001年9月 拡大取得 |
| ■大阪アキレスエアロン株式会社滋賀営業所 | 2002年9月 拡大取得 |
| ■北海道アキレスエアロン株式会社     | 2002年9月 拡大取得 |

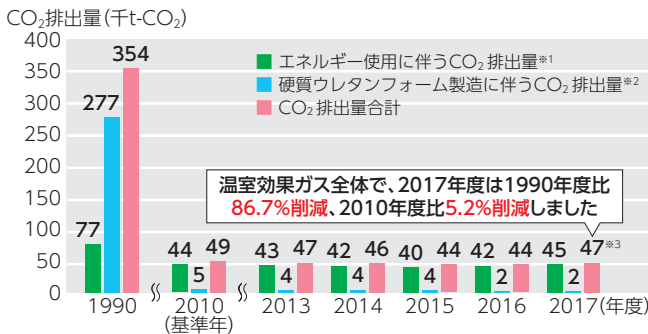
### ●環境管理推進組織



【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

## 地球温暖化対策

### ●温室効果ガス排出量推移



※1 エネルギー使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量は、事業活動に関わるエネルギー(燃料、電気など)に伴い発生するCO<sub>2</sub>です。またCO<sub>2</sub>排出量は、地球温暖化対策推進法(改正温対法:2006年4月施行)に基づく算出方法・排出係数一覧から算出したものです。なお東日本大震災以降、原発停止により天然ガス(火力発電)使用が増え、電気事業者の排出係数が大幅に大きくなったことから、2010年度以降は2010年度の排出係数で算出しています

※2 硬質ウレタンフォーム製造に伴うCO<sub>2</sub>排出量は、原液製造時および発泡時に漏洩するフロン系をCO<sub>2</sub>換算したものです。またフロン系の地球温暖化係数(CO<sub>2</sub>換算係数)は、IPCCの4次レポートから準用し、自主的に算出したものです

※3 [やまがた太陽と森林の会クレジット(J-クレジット)]より購入した排出削減量320t-CO<sub>2</sub>は差し引いていません(P22参照)

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社

### ●輸送に伴う二酸化炭素排出量・モーダルシフト率

| 項目(単位)   | 2016年度 | 2017年度 | 前年度比      |
|--|--------|--------|-----------|
| 輸送トンキロ*1(千トンキロ)                                | 78,853 | 82,547 | 104.7%    |
| 発生するCO <sub>2</sub> の排出量(t-CO <sub>2</sub> )*2 | 10,466 | 10,713 | 102.4%    |
| モーダルシフト*3率                                     | 17.7%  | 17.4%  | 0.3ポイント低下 |

※1 輸送トンキロ=貨物重量[トン]×輸送距離[キロメートル]  
 ※2 CO<sub>2</sub>の排出量(t-CO<sub>2</sub>)=エネルギー使用量(GJ)×排出係数(経済産業省より)  
 ※3 モーダルシフト:貨物輸送をトラックから鉄道や船に換えることです。一度に大量の貨物を輸送することができ、CO<sub>2</sub>排出量を抑える効果が期待されています

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

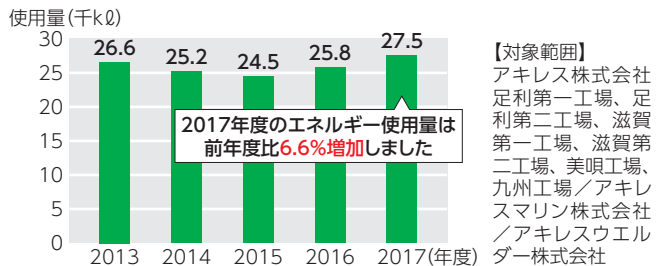
### ●太陽光発電設備

|        | 設備容量(kW) | 発電電力量(千kWh/年) | CO <sub>2</sub> 削減量*(t-CO <sub>2</sub> /年) |
|--------|----------|---------------|--|
| 足利第二工場 | 529      | 613           | 199  |
| 滋賀第二工場 | 1,006    | 1,182         | 507  |
| 合計     | 1,535    | 1,795         | 706  |

※足利第二工場は東京電力、滋賀第二工場はエネットの電気事業者排出係数(2010年)を使用

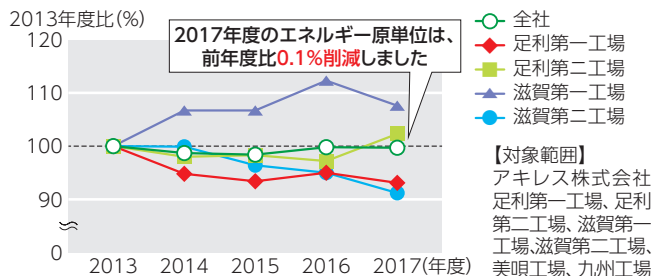
## 省エネルギー

### ●エネルギー使用量(原油換算)の年度別推移



【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社

### ●全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移



【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場

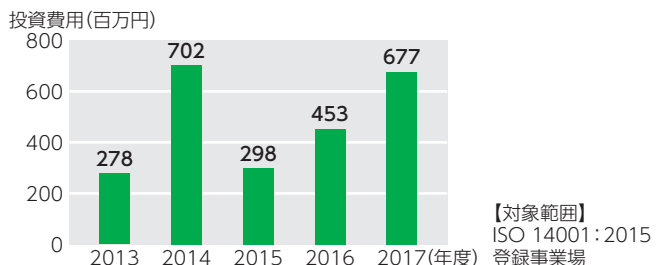
### ●設備の改造・導入の主な内容と使用エネルギー削減効果(原油換算値)

| 内容                            | 削減効果(kJ/年) |
|-------------------------------|------------|
| 配管・バルブなどの保温強化、蒸気漏れ防止          | 69         |
| 足利第一工場レイアウト改善(設備の更新、横もち輸送*削減) | 58         |
| LED照明・Hf蛍光灯の採用                | 39         |
| トップランナー空調設備への更新               | 30         |
| コンプレッサの更新、エアー漏れ防止             | 19         |
| 変電所での高効率変圧器への更新               | 7          |
| その他(ポンプ・モーターのインバータ化など)        | 45         |
| 合計                            | 267        |

※製造事業場敷地内や社内拠点間で、商品移送を行う場合の輸送

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

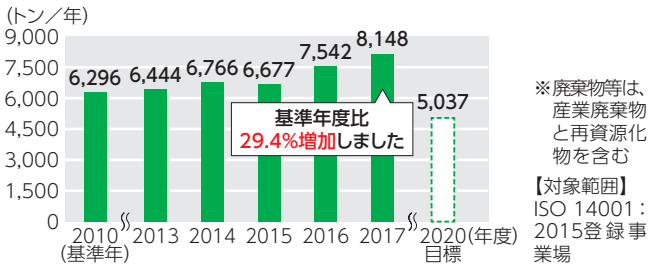
### ●年度別環境関連設備投資費用(過去5年間)



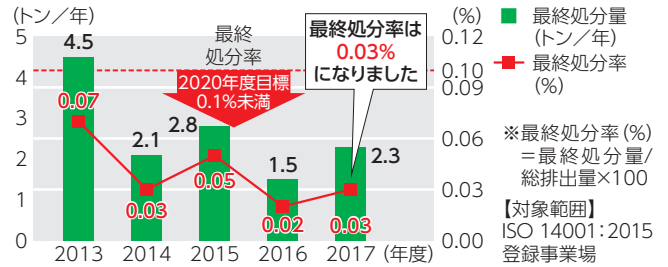
【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

## 3R活動と完全ゼロエミッション

### ●廃棄物等総排出量\*

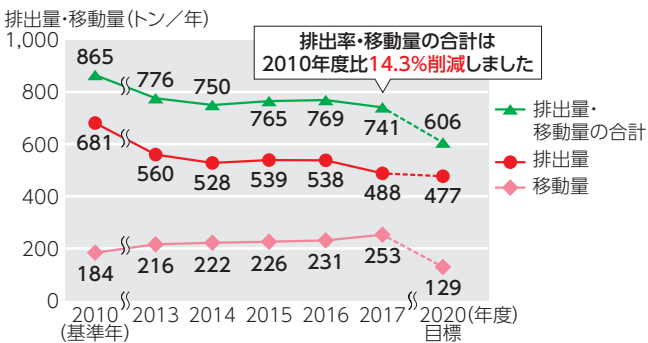


### ●最終処分量および最終処分率\*

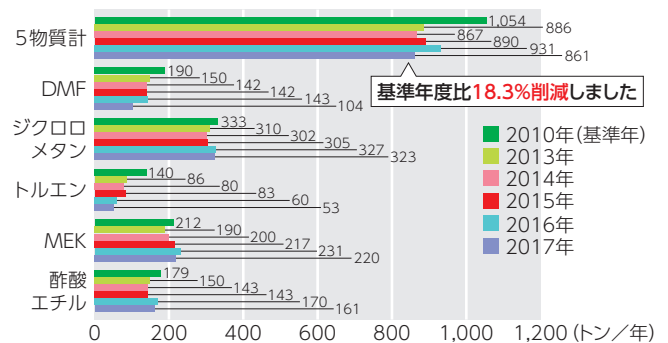


## 大気汚染防止(環境負荷物質)

### ●PRTR法対象化学物質の排出量・移動量



### ●環境負荷5物質の大気排出量



## 事業場別データ ※2017年4月~2018年3月

### ●PRTRデータ

| PRTR法対象<br>第一種指定化学物質名      | 足利第一工場 |      |       | 足利第二工場 |      |        | 美唄工場  |      |      | アキレスマリン(株) |      |      |
|----------------------------|--------|------|-------|--------|------|--------|-------|------|------|------------|------|------|
|                            | 排出量    |      | 廃棄物   | 排出量    |      | 廃棄物    | 排出量   |      | 廃棄物  | 排出量        |      | 廃棄物  |
|                            | 大気     | 水域   |       | 大気     | 水域   |        | 大気    | 水域   |      | 大気         | 水域   |      |
| アンチモン及びその化合物               | 0.00   | 0.00 | 3.6   | 0.00   | 0.00 | 0.05   | —     | —    | —    | —          | —    | —    |
| キシレン                       | 0.15   | 0.00 | 0.003 | 2.20   | 0.00 | 0.12   | —     | —    | —    | —          | —    | —    |
| ジクロロメタン(塩化メチレン)            | 160    | 0.00 | 4.10  | 2.40   | 0.00 | 0.18   | 12.00 | 0.00 | 0.79 | —          | —    | —    |
| N,N-ジメチルホルムアミド(DMF)        | 100.0  | 0.32 | 100.0 | 0.10   | 0.00 | 0.045  | —     | —    | —    | 0.3        | 0.00 | 0.00 |
| m-トリレンジイソシアネート             | 0.11   | 0.00 | 0.57  | 0.00   | 0.00 | 0.00   | 0.025 | 0.00 | 0.00 | —          | —    | —    |
| トルエン                       | 44.0   | 0.00 | 1.40  | 6.30   | 0.00 | 0.33   | —     | —    | —    | 2.09       | 0.00 | 0.00 |
| フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)          | 0.96   | 0.00 | 21.0  | 0.17   | 0.00 | 120.00 | —     | —    | —    | —          | —    | —    |
| メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート | 0.00   | 0.00 | 1.90  | 0.00   | 0.00 | 0.57   | 0.00  | 0.00 | 0.57 | —          | —    | —    |

| PRTR法対象<br>第一種指定化学物質名      | 滋賀第一工場 |      |      | 滋賀第二工場 |      |       | 九州工場 |      |       |   |   |
|----------------------------|--------|------|------|--------|------|-------|------|------|-------|---|---|
|                            | 排出量    |      | 廃棄物  | 排出量    |      | 廃棄物   | 排出量  |      | 廃棄物   |   |   |
|                            | 大気     | 水域   |      | 大気     | 水域   |       | 大気   | 水域   |       |   |   |
| キシレン                       | 0.38   | 0.00 | 0.00 | —      | —    | —     | —    | —    | —     | — | — |
| ジクロロメタン(塩化メチレン)            | —      | —    | —    | 150.00 | 0.00 | 0.00  | 0.38 | 0.00 | 0.00  | — | — |
| トリレンジイソシアネート               | —      | —    | —    | 0.087  | 0.00 | 0.00  | —    | —    | —     | — | — |
| トルエン                       | 0.024  | 0.00 | 0.00 | 0.001  | 0.00 | 0.00  | —    | —    | —     | — | — |
| フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)          | 0.66   | 0.00 | 82.0 | —      | —    | —     | —    | —    | —     | — | — |
| 1-プロモプロパン                  | —      | —    | —    | 1.50   | 0.00 | 6.10  | —    | —    | —     | — | — |
| ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル    | —      | —    | —    | 0.00   | 0.00 | 0.052 | 0.00 | 0.00 | 0.005 | — | — |
| メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート | —      | —    | —    | 0.00   | 0.00 | 0.00  | 0.00 | 0.00 | 0.00  | — | — |
| リン酸トリフェニル                  | 0.00   | 0.00 | 0.00 | 0.00   | 0.00 | 0.022 | —    | —    | —     | — | — |

PRTR法該当物質：2017年度の年間取扱量1トン以上の第一種指定化学物質のうち、排出量・移動量が多い上位物質のみ掲載(単位：トン/年)  
横線の物質は報告対象外(取扱量1トン/年未満)

### ●水質

| 測定項目            | 単位   | 基準値     | 足利第一工場 | 足利第二工場No.1* | 足利第二工場No.2* | 基準値     | 滋賀第一工場No.1* | 滋賀第一工場No.2* | 基準値     | 滋賀第二工場 |
|-----------------|------|---------|--------|-------------|-------------|---------|-------------|-------------|---------|--------|
| 水素イオン濃度(PH)     | PH   | 5.8~8.6 | 7.2    | 7.2         | 7.3         | 6.0~8.5 | 7.3         | 7.6         | 6.0~8.5 | 7.9    |
| 生物化学的酸素要求量(BOD) | mg/ℓ | 25      | 1.21   | 2.43        | 1.83        | 25      | 1.3         | 1.5         | 30      | 1.1    |
| 浮遊物質(SS)        | mg/ℓ | 50      | 1.5    | 7.83        | 2.83        | 25      | 7.2         | 1.4         | 70      | 2.6    |
| ノルマルヘキサン抽出物質含有量 | mg/ℓ | 5       | 0.5未満  | 0.5未満       | 0.5未満       | 5       | 0.5未満       | 0.5未満       | 5       | 0.5未満  |
| 窒素含有量(T-N)      | mg/ℓ | 120     | 3.48   | 3.74        | 3.7         | 12      | 0.53        | 0.43        | 12      | 3.1    |
| リン含有量(T-P)      | mg/ℓ | 16      | 0.1未満  | 0.1未満       | 0.1未満       | 1.2     | 0.05未満      | 0.64        | 1.2     | 0.05未満 |

\*水質は、足利第二工場は2カ所、滋賀第一工場は2カ所で測定されたものです ※基準値は各事業場所在地の条例によるものです

### ●大気

| 測定項目      | 単位   | 基準値 | 足利第一工場 | 基準値  | 滋賀第一工場 |
|-----------|------|-----|--------|------|--------|
| SOx(ボイラー) | k値規制 | 7   | —      | 17.5 | —      |
| NOx(ボイラー) | ppm  | 150 | 30     | 150  | 69     |

都市ガス使用のため、SOxの排出なし

## アキレスのCSR 2018 詳細版

発行日：2018年9月 発行：アキレス株式会社

### お問い合わせ先

#### 【コンプライアンス推進室】

〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー

TEL:03-5338-8232 FAX:03-5338-8250

#### 【安全環境推進部】

〒326-8511 栃木県足利市借宿町668

TEL:0284-73-9148 FAX:0284-73-9854